京城日報

朝刊と合せて八頁

定價 本紙一部金二錢五厘 一ヶ月金五十五錢 三ヶ月金一圓六十錢 六ヶ月金三圓 一ヶ年金五圓七拾錢 郵券代用一割增
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲特別 ▲三號活字一行增 ▲六號活字一行增 ▲紙面指定の場合一行に付五號活字の割增
發行兼編輯人 奥田直毅 印刷人 京城大平通一丁目 發行所 合資會社京城日報社 電話 編輯局 營業局 振替貯金口座京城

市場零聞

▲大上放れ [illegible]中入圖八十一錢先入圖五十四錢と直々六錢高に寄付直に八錢と上伸したるも賣物多く五錢と押し返し[illegible]安思ひの買物多く九錢と跳ね返し八九錢を保みて結局五十九錢小堅き散會を告げたり

▲前場の商戰 ㊀千五百石買 七百石賣 ㊁千石賣 [illegible] 四千百石買へ千八百石賣 千二百石買 千五百石賣 六千五百石買 [illegible]

[illegible]寄付其後入圖と跳ね上りたるも[illegible]買物多く五錢と押したるが[illegible]より買向ひたる買物も九錢と上伸し[illegible]散會を告げたり

激戰を開始したり尙今後壓軍の活動しく來らん振り合ありて今筋も從來多大の資金を中先に施し居るに係らず大に買向ひたり斯る成行にて暖漸の騰入來る形勢であるから今後大阪の變動と相俟て大變動を演出するならん

[illegible]頃日來賣物は概して少なからざる方なるも兎角上海の鉄の爲め各精米所共引續き一等白原料の缺乏に困難を感じつゝあり市況は小安ながらも上品は相當の價値迄買進まれつゝあり

仁川現物市場

沃川玄米 六、九〇 水原玄米 三、四〇 永同玄米 五、六〇 大田玄米 三、〇〇 槐山玄米 二、四〇 鳥山白米 一、一〇
鳥山白米 一四〇 鳥山大豆 三八〇 天安白米 五二〇 平澤玄米 二七〇 平澤白米 三三〇 平澤粟米 四四〇

△五錢出來 △正米入津約三百叺氣配は大阪定期の輸入津作約八百俵新穀四圓二十錢入組なるも午前中商談[illegible]

前場 寄付 八圓五十四錢 高値 八圓五十九錢 安値 八圓五十九錢 止 八圓五十四錢 出來高 一萬五千二百石

九月限 千九百石
十月限 二萬三千二百五十石
十一月限 二萬四千四百石
出來値比 [illegible]

●板硝子の近況 [illegible]來板硝子は上述を通れて價格は之を戰前に比すれば實に倍價以上の高値を示し居れり之れ畢竟[illegible]物の輸入杜絕せるが爲めにして其他外國品としては來朝の餘地なきにあらざるも[illegible]供給力は[illegible]內地會社の內地需要に追はるゝも今日は國內を通じて月額二萬函內外に過ぎずと稱せられつゝあれば[illegible]は絕對的に[illegible]

金剛山遊記 蘇峰生(口述筆記)

三、所謂金剛の山域

日本晴=吾等の幸運=溫井里まで
=凡境に非ず=金剛山系=海上の
仙山劍𡶶に似たり=內金剛と外金剛

長箭港は、平假名のの字形になつて、此邊では、先づ、良港と言うてよからう。只、陸上に屛風の如き金剛の山脈を控えたるが爲めに、吹き颪しが激しく、港外波なく港內却て波ありといふ不思議の現象を來たすといふをなれば、見かけ程の良港といふことも出來まい。

さて、上陸して、俥に乘らんとすれば、二箇の內地人あり、予が頭を熟視して、あな珍らしや蘇峰先生といふ。振り回つて見れば、毛利門司新報社長である。傍に立つ偉丈夫は關羽髯を垂れ、偃月刀ではないが、槍の千段巻に刀を仕込みたる長杖を衝きたるは、間違も無き佐々木蒙古王である。いや、眼に泰山を知らず失禮せんとしたとて挨拶し、其の來路を訪へば、昨日の豪雨にて、九龍淵の見物も出來ず、途中より引返したりといふ。吾等は、もはや、元山に著したる頃は、愈、雨中の金剛山を見る可しと覺悟を決めて居たるに何の幸か、一天拭ふが如く、長箭港より二里の途を、金剛山ホテルに著したる頃は、日本晴にて、支配人は予等の顏を見るや否や、先日も鐵道協會の古市、末延、馬越等方々の來遊の砌は雨が降り通し、本月に入つてより以來、晴天といふ日は僅か一日であつたが、今日と云ふ今日は、見つけたも同樣の天氣であると頻りに吾等の幸運を賀したのである。

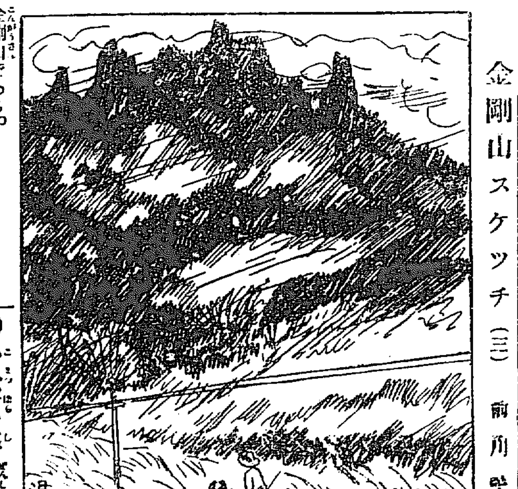
長箭港より溫井里までの二里の道は、海岸に沿ふて行くが、既に、其の道に傍ふたる巨巖の山骨を形りたる樣は、凡境ではない、異常といふてもよからう。若し東京附近にでもあつたならば、都人士は大騷ぎをなすであらう。

ホテルにて朝食を喫める可き筈の吾等は、午餐をとることになり、十二時二十分より、愈、外金剛の見物に出かけたのである。

× × × × × ×

吾等は、茲に、金剛山そのものに就ての概念を得て置く必要がある。元來、朝鮮半島の背梁骨とも言う可き白頭山系は、平安、咸鏡兩道の境界を南下し、永興灣に至つて、折れて東に向ひ、鐵嶺黃龍の諸山となり、その山勢、日本海の沿岸に逼まり、更に南に馳せ下らんとするところに、一大山塊を生ずるものが、卽ち

金剛山スケッチ(三) 前川千帆



金剛山である。そこで、金剛の山域は、約十餘方里に跨り、朝鮮では一萬二千峯といふて居る。その最高峰が毘盧峯で五千三百五十八尺、その他集仙峰、永郎峰、香城、望軍臺、白馬峰、彌勒峰等何れも四千尺より五千尺の間である。その他の諸峰、何れも嶮巇にして、鋸の齒を立てたるやうであつて、江原道の沿岸より之を眺むれば、恰も柳子厚が海上千山似劍鋩といふ句を其儘採用して恰も此山景を形容するため、出來てるやうに思はれて居る。

金剛諸山の中にて、毘盧峯が第一の位置を占め、之を中心として、其西南には日出月出の二峰並立し、餘勢南に走つて、獅子、香爐、靑鶴の諸峯となり、東南に走るものが、將軍臺、雁門嶺、白雲臺、望軍臺、彌勒、釋迦、觀音等の諸峰となり、此兩山脈間の溪谷が、卽ち內金剛の勝景の由りて存するところで、而して、將軍臺、雁門嶺、白雲臺等の諸峰が東西の分水嶺であつて、西に下るものは、漢江の源流となつて江華海に出で、東に下るものは、赤壁江となつて日本海に入るのである。而してその分水嶺の西を內金剛といひ、その東を外金剛といふのである。海金剛とは、要するに、殘山剩石である。つまり、山の餘勢の海濱に及ぶところ、若くは奇巖怪岩の海中に亂立する所を言うに過ぎんのである。

○栃木縣觀光團入鮮 栃木縣七字農商課長以下四十七名觀光團十八日午前釜山著同午後四時發列車にて大邱へ向ふ(釜山特電)

○小松原氏 全州に來れる前文相小松原英太郎氏は十八日午前九時自動車にて出發金堤を視察して木浦へ向ふ(全州特電)

雜報

御影奉戴式 京畿道に於て

今回朝鮮に▲道廳の奉戴式 御下賜相成りたる五十五枚の御眞影中京畿道の分は十八日午前九時より宣化堂に於て御影奉戴式を舉行したり當日は午前九時半より檜垣道長官及び各高等官、判任官一同禮裝の上宣化堂に參集捺て奉安したる御影の幕を撤し道長官御影の前に進み最敬禮其他の各參列者順次に御影前に進み最敬禮之にて幕を垂れ式を閉し茲に道廳に御下賜なりたる御眞影の奉戴式を終る

▲各學校の奉戴式 次で午前十時京城、仁川の兩府尹及び各學校長等同所に出頭し道長官は先づ京城府、仁川府等へ御下賜せられたる御眞影を各府尹に手渡し夫より左の順序に依り各學校長に渡す

京城公立高等女學校、仁川公立高等女學校、西大門公立尋常高等小學校、鍾路公立尋常小學校、元町公立尋常小學校、日出公立尋常高等小學校、南大門公立尋常高等小學校、龍山公立尋常小學校、櫻井公立尋常小學校、仁川公立尋常高等小學校、水原公立尋常高等小學校、開城公立尋常高等小學校

斯て午前十一時全く式を終了し數名の騎馬巡査之れを警護して府及び各學校に奉送し仁川の分は南大門驛迄奉送せり尙ほ同日府及び各學校に於て奉戴式を行へり

●朝鮮農會總會 第一日は工業傳習所に於て開會

朝鮮農會第二回總會は十八日午前九時半より工業傳習所に開會せられたり當日各道より參會せる會員數七百餘名にして又來賓として關係官民有志多數並に內地滿洲臺灣樺太より代表參列者四十餘名及び農林學校生徒參列す定刻附屬大講堂に全員參集の上副會頭本田幸介氏は登壇開會を告げ左の式辭を述ぶ

▲副會頭式辭 本日朝鮮農會第二回總會を開催するに際し閣下並に各位の來臨を辱うしたるは本會の最も光榮とする所なり就中內地及び滿洲等より特に來臨せられたる厚誼に對し本會は謹で感謝の意を表明す

抑も本會は明治三十九年十一月の創立に係り初め韓國中央農會と稱し日韓併合の當時朝鮮農會と改稱せり設立の目的は朝鮮に於ける農民の智能を啓發し且之を誘導し以て農業の進步を圖るにあり創立以來官憲の庇護と會員の奮勵とに依り會運年と共に降盛に赴き今日に於ては三千に垂んとする會員を有し支會の數亦十有二を算するに至れり本會の施設せる事業は未だ世に誇るに足るものなしと雖常に堅實を經とし誠懇を緯とし穩健なる農民の友として徐々に之を扶掖誘導するを旨とせるを以て本會の多少朝鮮農業開發に貢獻せる所あるは自ら信じて疑はざるところなり

新政五年の今日朝鮮に於ける農業は昔日と全く其趣を異にし著しく其面目を新たにせるは內外の等しく承認するところなりと雖尙之を內地に比すれば大に遜色あり始政五年記念物產共進會の開設せらるるを機とし本會の第二回總會を開催する所以のものは外には先覺諸士の指導を仰ぎ內には會員相互の智識を交換し以て本會の將來執るべき方針を定め會員諸士と共に一層奮勵努力大に朝鮮の農事を進步せしめんことを期するの微衷に外ならず閣下並に各位幸に之を諒せよ聊か鄙辭を陳じて式辭とす

次に副會頭より諸般の會務報告をなし次に役員の推薦に移り本會々則第十四條に依り總會毎に役員を推薦する事として其方法形式を諮りしに之れが推薦は副會頭に一任するに決し副會頭は熟考の上後刻氏名を報告すべしと告げ次に總督の祝辭ある筈なりしが公務の都合上總督小時遲參に付き日程を變更して講演を開始し東京帝國大學農科大學長古在博士は『農業の獎勵』と題し講演をなし、此時寺內總督山縣政務總監臨場す

▲總督祝辭 總督は登壇して次の祝辭を述ぶ

朝鮮農會は夙に朝鮮に於ける農林業の改良發達を圖るの目的を以て創立せられ爾來十年の歲月を經て其間優良種苗、種禽、種畜の配付、農具購入の仲介、園藝品評會の開設及び朝鮮土性調の出版農林業に關する各種事業を經營し且每月一回會報を發刊し以て斯業の振興に努力せり今や始政五年記念朝鮮物產共進會の開催を機とし茲に其の第二回總會を開くに際し聊予の所見を敍べて祝辭と爲さんと欲す

朝鮮の農業は最近に於て其の發達殊に著しく大正三年の生產額を以て明治四十三年の生產額に對比するに米四百二十四萬石、大麥百九十一萬石、小麥四十六萬石、大豆六十四萬石、粟五十六萬石、陸地棉千六百六十三萬斤、繭三萬二千石を增加し又畜牛は七十萬頭より逐次增加して百三十三萬頭に達し其の他果實、蔬菜の改良增殖、綠肥栽培の發達、牛皮調製の改良等其成績見るべきもの多し又林業に就ては本府の施設と相俟て民間の殖林事業逐次進捗し國有林野貸付の造林地面積二十八萬四千町步、模範造林及び學校林の面積九千五百町步、全朝鮮の植樹數約二億三千萬本官營苗圃百二十七箇所森林保護機關五十七箇所を算し山相漸く新生面を開けり

然れども山谷叢澳には尙未墾地多く水原涵養の林地未だ完からざるが爲に灌漑の利缺ぐる所多し開拓必ずしも水田に限らず麥粟栽稗亦播種して利益を舉ぐるを得べく要は適地に適種を播植し收穫を增進して輸出を隆昌ならしむるに在り造林必ずしも良材を產出するのみの目的にあらず風雨を調節し水源を涵養すること寧ろ朝鮮の現狀に於て緊要なりとす

農林事業の發達は農家各自の努力に因るべきは勿論なりと雖之を指導誘掖するは朝鮮農會の力に俟つもの多し故に常に殖產愛林の思想を皷吹し農家必要の新智識を注入し以て斯業の發展に資せざる可らず農會既往の成績は頗る良好なるも將來一層奮勵して本府の獎勵政策を助長し益々朝鮮產業の發展輸出の增進に貢獻せむことを希望す

總督の祝辭に次ぎ來賓として川崎太郞氏と李完用伯(代讀)との祝辭あり正午休憩す此日河野農商務大臣より總會開會を祝し將來の發展を祈る旨の祝電及び山口縣農會長よりの祝電ありたり

●稅關課長會議

稅關稅務課長會議は十八日より二十日まで五日間總督府第二會議室に於て開催、統裁者は度支部長官代理宮木關稅課長にして第一日は諮問事項あり第二、第三兩日も引續き諮問事項にて二十一日は打合事項、二十二日は總督、訓示及び打合せある可く開議時間は諮問日は午前九時より正午まで、打合せ日は午前九時より午後三時までなり

●支那佳賓日程 歸國は二十日朝

支那派遣員張二十七師長、金農商部次長等一行の日程は其後多少の變更あり、十九日は午前九時京城中學校、總督府濟生院盲啞部並に養育部を視察し、工業傳習所に於て晝食を認め午後藥品模範場視察、午後三時より華商總會茶話會に臨み更に七時より山縣事務總長主催の朝鮮ホテルに於ける晩餐會に臨席、二十日午前七時十分南大門驛發汽車にて歸國の途に就くことゝなれり

●支那佳賓招待

支那派遣員一行は十八日午前九時南大門公立普通學校並に女子高等普通學校を視察し夫れより昌德宮秘苑に赴き午餐の饗應を受け午後總督府醫院を視察せるが夜は朝鮮ホテルに於ける朝鮮銀行、三井物產及び東亞煙草會社合同の晩餐會に臨めり

□共進會入場者

十七日(日曜日、晴、婦人子供デー)
▲晝間 內地人 朝鮮人 支那人 二萬七千五百十二人 一〇、七三〇 八、四三一 其他の外人 無料者 七三 八、一四一
▲夜間 內地人 朝鮮人 支那人 一萬一千百九人 三、九〇〇 五、九〇〇 四八 其他の外人 無料者 三八 一、六二九
●合計●三萬八千六百二十一人●
開場以來累計 六十四萬八千四百五十九人

●李埈妃溫陽溫泉行

李埈公妃殿下一行六名は十八日午前南大門驛發列車にて南行天安驛御下車溫陽溫泉に赴かれたり

●慶會樓の招待會

京城協贊會は十八日正午慶會樓に於て入京中なる中部鐵道管理局主催の團體員二百名を招待し茶菓を饗したり

●軍參謀總督府訪問

朝鮮駐劄軍參謀陸軍步兵中佐安藤晋氏は十八日午前總督府を訪ひ山縣政務總監以下各部長官局長等に新任の挨拶を爲したり

●木內氏歡迎會延期

十九日夜花月に於て官民有志の木內上院議員歡迎會を催す可き事既報したるが同氏微恙の爲め延期する事になれり但し同氏は極めて微恙にて左したる事なければ兩三日中には開催の運びに至るべしと

人事消息

▲大木喬命氏(代議士)十八日入京朝鮮ホテルへ
▲鱶水理一氏(代議士) 同上
▲內村新吉氏(代議士) 同上
▲吉田茂氏(安東駐在領事) 同上
▲澤柳政太郎氏(前帝大總長) 同上
▲井坂孝氏(實業家) 同上
▲油井寧氏(臺灣總督府稅民局長) 十八日入京
▲保科子爵 十八日平壤より入京天眞樓へ
▲大島農學博士 十七日新義州より入京巴城館へ
▲栃內農學博士 同上
▲安東道尹交涉課長(支那官吏) 入京中の所十八日安東へ歸任
▲奉天東邊道尹(支那官吏) 同上
▲池田常造氏(大阪記者) 十七入京山本へ
▲河東奎五郞氏(羽衣樓) 旅程を變更して十七日慶州扶餘視察の途に就く二十三日頃更に入京金剛山へ向ふ

南言北語

頃に天氣が能くなつた愈々半島の秋は闌である▲自古逢秋悲寂寥、我言秋日勝春朝、晴空一鶴排雲上、直引詩情到碧霄は半島の此の秋の直寫である▲滿天雲影を認めざる蒼空に翔鶴銀羽を輝かして舞ふ處などは宛然たる蓬萊の圖だ▲冀くば此の碧瑠璃の大空に富岳をして立たしめたならば更に〳〵大偉觀を添ゆるのであらうと憶ふ▲ソーラ又た英軍は白佛國境で驅逐されかゝつた何うもそれだから一時の勝利も當にならぬと云つたではないか▲又日本出兵論でも出るのであらう出來もせぬ事を云はずにウンと後足に力を入れるべし▲巴爾幹の獨逸外交は意外に成功して居るらしい希臘も一端協商側に傾きかけた首をグッと立て直した樣だ▲其の一方で勃牙利は盛に活動を始めやうと云ふ▲之れで見ると羅馬尼の中立もまだ〳〵當にならぬ暫時見て居らなければ何とも云へぬ獨逸は羅國行食料品を差し押へて之れでも味方にならぬかと威嚇して居るからなあ▲其れのみならず獨逸は西班牙の保守派團員にジブラルタルと摩洛哥を提供しよう▲又た瑞典に對しては芬蘭を提供するから▲獨逸の希望する時機には必ず戰爭に參加して呉れと慫慂しつゝある▲之れで見ると獨逸は他人のものでも吾物の樣に思つて居る▲お前のものは俺のもの俺のものは俺のもの主義で其の横著千萬な處は世界無比だが又た此の主義が成效を收めるから今の外交は生馬の目を拔かなければ駄目だ▲金持の佛國が貧乏な日本に金を借せと云ふオットよしで引き受けた處で財布の內には幾許あるのだらう心細い▲日本では海軍擴張で又一と問題起り相なが亞米利加では一度に弩級戰艦の二十隻もこしらへると云つて居る▲五年目には今の海軍を二倍にする相なア、金なる哉だ▲さなきだに大共進會で賑つて居る市中は今日の京城神社大祭で益々賑つた▲氣候はよし天氣はよし景氣はよしの三調子揃つて居るから頗る愉快だ大に遊んで大に働け

登錄商標
太物類各種足袋問屋
染手拭木綿並に足袋原料
足袋並にカバー製造販賣
山印大阪足袋一手販賣
明治足袋會社特約販賣
大阪市東區唐物町堺筋角
柿定商店
電話(國)東一四七番 振替口座大阪二三七五番
▲營業科目及相場表は御一報次第送呈仕候

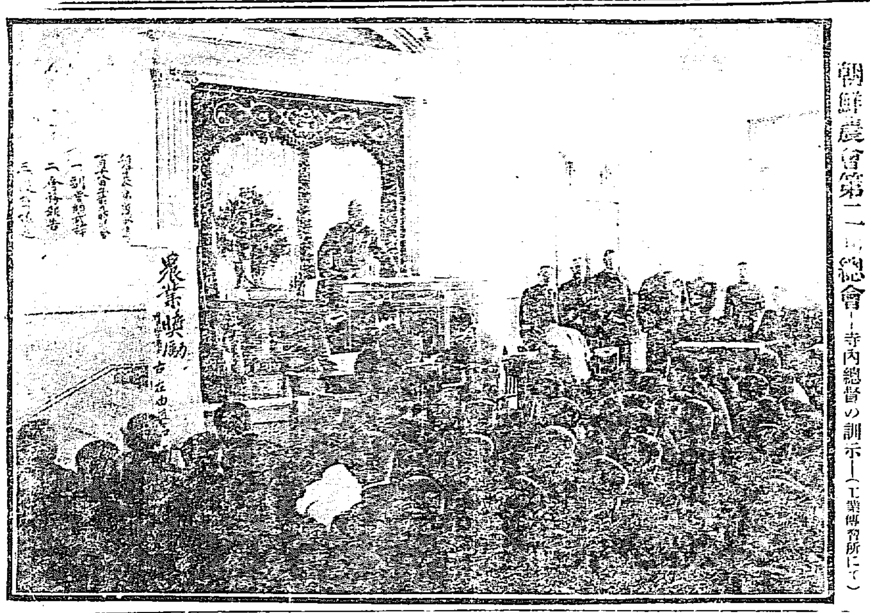
申す迄でも無く
運動具はシノサキへ
京城本町二丁目
篠崎運動具店
秋期カタログ進呈

金牌受領
朝鮮始政五年記念共進會に出品せし
洋家具飾棚
は金牌を受領せり
京城本町一丁目
森安吉
電話四三〇番

御大典用 紐各種
細引 帳糸 幕內外 麻苧 疊糸 網糸 色糸 シデ紐 麻縄 麻糸 綿ロープ
大阪市東區南久太郎町四丁目心斎橋通り
和田庄助商店
振替貯金口座大阪一五二〇番 電話本(三)四六〇番 略號(ワタ)

健康を欲せらるゝ諸君の
忠實なる同伴者として
蜂印香竄葡萄酒は
今や天下の同情と人氣を
確實に
獨占したるものなり
▼毎朝の一杯は
■精神を爽快にし
■元氣を旺盛にす
▼毎晩の一杯は
■疲勞を慰し
■睡眠を能す
內外各國の金銀賞牌廿四個受領

東京日本橋
近藤利兵衛



朝鮮農會第二回總會（寺内總督の訓示）（工業傳習所にて）

神輿還幸の賑ひ

美しい中券藝妓連の仕丁姿＝家庭博で休憩＝本社献納の煙花の轟き

假の宮居を繞りて立てる松の翠のいと濃かに笹目正しく白砂敷き詰めた龍山御旅所の幄の中

△諸員警護の間に 安らかに一夜を送り給へる神輿は十八日午前八時谷村齋主、平井副齋主、中村委員長、山口副委員長等その他世話事委員の參列と同時に嚴かに執り行はれたる御旅所發幸祭の終るや煙花を合圖に前日と同じく武々しき鎧武者馬軒子狩衣の金棒與振杖つける

△猿田彦等の先導 嚴めしくとゞろ鳴る大太鼓に連れて肅々と立ち出で給ふ、此の日麗かに晴れた秋の空には朝暾漸々さして照り輝やき神輿の進むところ燦然として光彩を放てるも神々し、行列は漢江通りに練つて京町ケ角地に出づれば穩かに進御し來り神輿は俄かに揉みに揉み練りに練つて

△沸き立つ暫時 それより電車通りに沿ふて岡崎町に出で三幸洋行前に休憩、同所に副齋主の修祓あり行列は休憩し銃を交ひ此處より進行を早めて南大門驛前まで一直線に進み休憩すれば同所には京城側の氏子總代出迎へ供奉し來り

△龍山側と交替す 同所の停車場前には花月、清華亭、松葉亭、大江戶、井門その他の中券番の藝妓役員六十名は行列を待ち受け居れり、女仕丁姿に扮せる藝妓は紅白の綱に大屋臺を曳き囃子、太鼓の調子を揃へて行列に伍しつゝ蓬萊町より太平町に出づれば朝鮮公論社前には休憩所の設備整ひ牧山社長以下社員總出にて神輿を迎ふ同所を發して人馬の

△往來織るが如き 太平通りを練りに練つて京城日報社前に到れば時に正午、五千坪の大廣場を縱横無盡に揉み歩るき中央に設へられたる御休息所に安置せり、斯くて齋主參列員藝妓一同は社内家庭博覽會の後庭に入つて休息、晝飯を喫め思ひ思ひに

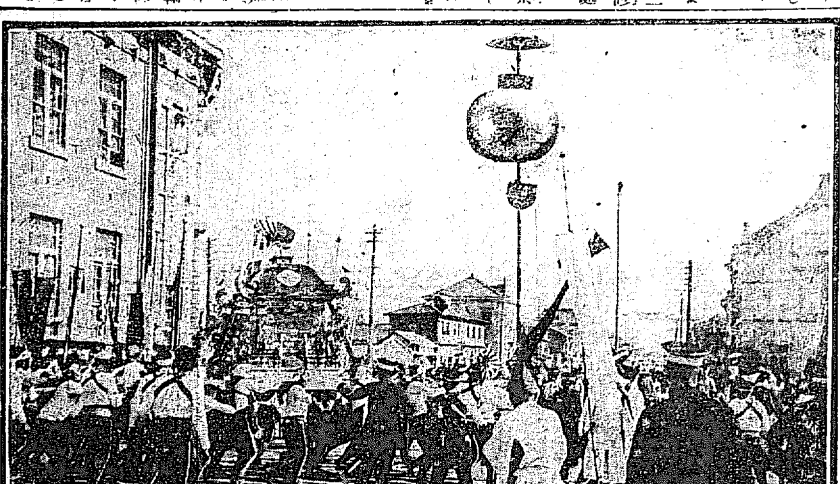
△會場内を見物し 午後一時過ぎ大太鼓を轟かせつゝ出發、武橋通りより鍾路一丁目に出で南大門通りより明治町一、二丁目を過ぎて東拓會社前に休息、黃金町二丁目を練つて永樂町二丁目より赤門前に出で休息の程もあらせず日出町より總督官邸前を過ぎて

△午後四時半還御 相成りたるが、それと同時に本社献納の煙花は秋晴の蒼空に轟き渡り諸員休憩の後五時より還御祭を行なひ齋主、祭典委員長祝詞を奏し玉串を捧げて神輿還幸の儀は滯りなく終りを告げたり

御眞影を捧げて

道廳より歸り行く各學校長の光榮

聖上陛下御眞影戴式は十八日に午前中府内各公立學校で最とも莊嚴に擧行された、此の日京畿道廳樓上の授與式場に於ては管内内地人側各公立學校々長參集、先づ京城仁川の高等女學校長を始め府内西大門第二の高等小學校、南大門、櫻井、日出小學校より龍山元町尋常高等小學校、龍山尋常小學校其他仁川、開城、水原の各小學校長等一同順次に御眞影を奉戴し次で嚴肅なる式了りて後道廳職員の奉送裡に各校長恭しく御眞影を奉じつゝ退出、各自騎馬巡査を先驅として學校の校門を入れば此處には又職員生徒一同の奉迎ありて最も嚴肅なる光景を呈す、斯くて一應御眞影を奉安室に安置したる後大講堂の廣間にて奉戴式を擧行すれば職員生徒一同の最敬禮に次で君ケ代の唱歌あり次で校長の訓示にて此の嚴肅なる式を了つた



本社前に於ける神輿（十八日午後零時半還幸の光景）

一日四萬

十七日の共進會は開會以來第一の入場者

十七日の共進會は婦人子供デーと共進會の褒賞授與式とがあつて所謂盆と正月が一處に來た樣な賑ひに搗てゝ加へて折柄の好天氣に一層の人出多く總計は二萬七千五百十二人夜間は一萬一千百九人合計三萬八千人と云ふ四萬に近い共進會開會以來第一の人出であつた

横斷競走(マラソンレース)

體格檢査終る

京城協贊會主催の龍山京城市街横斷競走に參加を申込みたる百五十名の候補者は十八日午後一時より慶會樓内に於て赤十字病院醫員立會の上體格檢査を行ひ内五十名を選拔したり此競走規程左の如し

一、本競走は十月二十日午前十時開始す
但雨天順延とす
二、選手は滿二十歲以上四十歲以下の男子五十名とす
三、前項選手は競走應募者中より體格檢査の上之を選拔するものとす
四、體格檢査は十月十八日午後一時より本會場内慶會樓に於て之を行ふ
五、選手は當日午前八時三十分迄に本會事務所に參集すべし
六、競走の出發及歸著點は共進會場内本會事務所前とす
七、選手は同時に出發點を發足し途中何れの道筋を選ぶも妨げなしと雖も必ず左の指定地を經過するを要す
但し發著共共進會正門を通過するものとす
パゴダ公園、南山公園、獎忠壇公園、南大門、龍山練兵場、龍山總督府官邸前、龍山印刷所前
八、選手出發の際は號砲を以て合圖と爲すものとす
九、競走審判員は別に之を定む
十、選手二名以上同時に決勝點に到著したる時は抽籤に依り其順位を定むるものとす
十一、賞品は先著者順に依り之れを授く
十二、賞品は左記に依り現金又は物品を即時交付す
一等より二十等迄（第一着より廿着迄）
一等金廿圓　二等金十圓　三等金七圓　四等金五圓　五等金四圓　六等金三圓　七等金二圓　八等一圓五十錢　九等一圓　十一等以下二十等迄は京城案内記念繪葉書若干部宛
十三、選手には白色段々形帽子、赤白色段々及び表面に番號裏面には本會章を印したる布巾（白地に赤色の緣を取りたるもの）に赤文字を用ゐしめ各指定地に於て通過の證として赤色の巾の印を交付するものとす

當日選手出發の際之を市内へ周知せしむる爲め會場内に於て號砲一發を打揚ぐ
競走に因る身體の傷害其他の故障に對しては本會は何等の責に任ぜざるものとす

▲競走審判員 審判委員長山形大佐 審判委員 岡部（京日）小幡（朝鮮）牧山（公論）大垣（京通）原田副會頭、金谷同、白同、井上理事長、石原理事、馬詰同、中村同、鄭山安同、崔同

尚ほ競走には協贊會より花自動車を出して應援に力め要所々々に數名の應援隊を設置すべしと

水族館デー

晝間は寶探し　夜は變裝美人

仁川水族館にて來る二十三日二十四日の兩日を水族館デーとし晝は寶探しあり夜間は仁川各藝者屋より一名宛の代表者及び妓生六名都合十四名の變裝美人を入場せしめ發見者には一人に對し五六圓の賞品を贈呈する由尚ほ二日間共晝間は早き入場者に對し一千五百部の水族館繪はがきを進呈する事となりたり

大隈會長謝電

吉原京城協贊會會長より大隈帝國飛行協會々長に宛て送りたる謝電に對し十八日吉原會長宛にて左の如き謝電ありたり

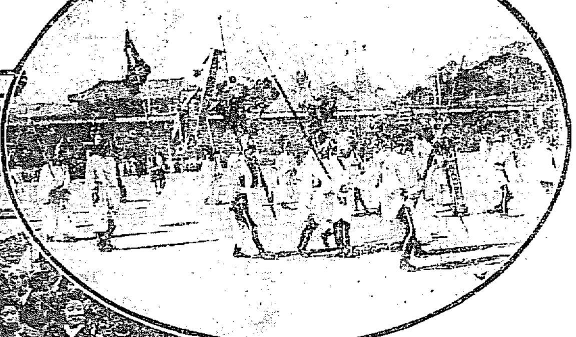
御鄭重なる賀電及び出張員に對する御配慮を深謝す

水雷艇の觀覽

十四日仁川港に入港の第十五艇隊は十五日より一般觀覽を許したるが十五日は三百八十九名十六日は三百七十名十七日は六百五十名の觀覽者あり十八日は正午迄既に四百餘の觀覽者あり十五日より十八日午後迄の水雷艇觀覽者は約二千名に達せり

菊花大會賞品

京城協贊會主催の菊花大會はいよ〳〵廿四日より慶會樓階下に於て開催さることに決定せるが出品は一名につき五鉢以上十鉢以下を廿日より運搬陳列されたく賞品には一、二、三等銀牌以下十等まで賞品を呈する筈にて廿六日より入場者一般の投票にて審査等級を定め廿七日その結果を發表賞品授與を行ふ筈なり



神輿行列と家庭博後庭に於ける仕丁姿の中券連中

神輿の供奉員で大賑ひ

今明日は大景品デー＝安さんと赤い色

家庭博も既う後十日餘りとなつたのでまだ見ずに居る人、一度は見たが彼の所丈は是非今

▲一度見て置たい と云ふ人が出て來て日増しに觀覽者が殖えて十八日も朝から續々の人出であつたお正午には京城神社御大祭の行列と神輿が家庭博前にて御休憩になり豫ねて湯茶其他の準備整つた家庭博後庭で谷村齋主始め供奉の齋員俗人一同中村總長、山口、和田、釘本、金の各副長其他委員等二百餘名が

▲晝餐を認める爲め社員の案内を受て入場したので正午から一時までは大變な賑ひ元氣の好い白丁は遊動圓木やカチカチ山を滑べつて見たりする

▲仕丁姿に扮した 中券の藝妓連五十餘名も後庭で一緒にお晝餐を認める例の

▲猿公の安さん ▲赤い着物の美人 を五十人も一時に見せられたので氣も逆頂天氣違ひの樣になつて騷ぎ廻つて居るので、家庭博後庭は時ならぬ賑ひ、普通觀覽者は此光景を見やうと正門から入場するもの引きも引らず夫れに今日の景品引換所は別項寄贈者欄にある通り

▲奇拔な飛入りの ▲番外景品が山の如くに積まれてあるので景氣の好い事夥しい、お辨當を終つて暫時の休憩の間に供奉員や藝妓連は『是非明日は緩つくり見せて貰らいませう』と何れも異口同音、今明日の兩日は晝夜に亙つて

▲飛入景品の最も多い大景品デー ですから此機會を脱さず御來觀になり千載の悔を遺さぬ樣に願います

吉本潤亮氏逝く

君は山口縣佐波郡中の關村の人にして明治三十七年渡韓京城病院に聘せられて來京し總督府醫院の前身なる大韓赤十字病院の設立の任に當り之れが基礎を定め後諸町に自ら京城醫院を開業せるが不幸病を得て同院は村上氏に讓り新町赤華莊氏の別莊に於て療養中なりしが遂に十六日午後二時二十分長逝せり葬儀は令弟十九日夜東京より到着日時決定の上永樂町西本願寺に於て執行する筈

商況

合同新報 … 鐘淵紡績 … 同上新株 … 東洋拓殖 … 大阪商船 …

…三品市場も昨今に至り支那帝政問題の政亂氣構への念を強め來ると共に輸出筋の態度一變の氣味を帶びつゝある等市場の人氣は稍高に向ひ…

大阪期米特電

一月限 一一九、四〇 一一九、一〇
二月限 一二〇、六〇 一二〇、六〇
三月限 一二一、八〇 一二一、八〇

…釜山改良 木浦倭米 同改良 群山特改 … 浦項 元山 大豆 … 阪神 交木 …

下關相場

▲朝鮮白米は弱保合、依然内地米の不振に…云ふ程にあらざるも將後可也の出廻りを見るに至りたるのみならず産地の人氣面白からねど米價は旁目緩慢の氣進まずして現物賣れ行きの鈍化…
致晩産州百十…大田物…十圓…
▲朝鮮一等白米（當用）十二圓三十錢
▲同二等白米（當用）十二圓…

天氣 晴れ
十月十九日
日出 六時四十三分
日沒 五時五十五分

秋口の下痢病は黴菌性の者多し故に止瀉藥には特効ある殺菌力を有する藥劑ならざる可らず

下痢、腹痛にはヘルプが一番よい

柏村博士のヘルプは此點を考慮し調劑せし者なれば從來の賣藥になき殺菌、防腐の作用を具備す

主治 ●食傷●食過●時候あたり●水あたり●寢冷●冷腹等腸胃の故障より起る■下痢■腹痛■吐瀉■泄腹■腹瓦斯を止め■腸加答兒■胃加答兒を治す

效能

本舖 東京日本橋本銀町三 振替東京八六四番 津村敬天堂

●取次は全國到る處の藥店にあり

定價 二十錢 三十錢 旅行携帶用 五十錢 徳用 一圓 二圓五十錢

花火 鍵屋 富田煙火製造所 京城三坂通四十七 電話二八七二番

香油 八千代 かほり油 かほり香

各博覽會にて賞牌數個を受く

支店 大阪市南久寶寺町四 藤森源之助 電話南一八七八

東京日本橋區堺町 本舖 井筒屋香油店 電話浪花六番

内科 小兒科 入院隨意 京城日出小學校前 多々見醫院 院主 醫學得業士 多々見五郎 電話九四〇番

京城黄金町二丁目 呉服店

丸一綿部

電話二三三一番 振替三六五

毛布 薄利多賣

御眞影奉戴式

忠淸南北道廳に於ける

▲忠淸南道廳　今回宮内省より朝鮮總督府を經て忠淸南道廳並に大田小學校へ御下賜相成りたる御眞影は十六日平澤驛より小松道事務官奉持し午前十一時三十分鳥致院驛着直に長官以下同驛官民の奉迎を受け小原長官同乘自動車にて公州に向ひ錦江渡船場より公州に入り道路東側には各官衙學校其他官民一同堵列奉迎を受けつゝ奉持せる自動車は先驅騎馬憲兵先導にて白砂を以て淸めたる道路を豫定の通り午後一時道廳に御安着同一時半より莊嚴なる奉戴式を擧行せり此日小原長官各高等官以下一般民何れも禮裝し威儀を正し一同參集を待て奉安せる道廳正面事務室に面し參列長官より順次拜影最敬禮の內に閉扉首尾能く奉戴式を了せり

▲忠淸北道廳　十六日の天は長閑けく晴れて小春の如く温く市內は掃き淸めて日の丸の國旗軒頭に綴く搖ぐ此日淸州は忠淸北道に御下賜の御眞影を迎へ奉らんとて正午頃より道廳正門前の理想道路の兩側は正裝せる文武官各學校生徒公共各團員一般參拜者等を以て所狹き迄埋れたるも列を亂さず粛然として待つ裡に時三十三分日章の小旗を交叉せる自動車は中央に栗山書記御眞影を捧持し奉り左に鈴木道長官右に椰井事務部長を乘せ最敬禮を爲せる奉迎者の前を滑るが如くに第二部の玄關着直に會議室に設けたる奉安所に安置し奉り暫時休憩の後高等官各官吏代表者赤十字社代表者愛國婦人會在郷軍人代表者一般參列者等の參拜あり午後二時道長官室に設けたる奉安所に移し參らせたり

長白府の日支軍警衝突す

彼我即死者二名

鴨綠江上流長白府より或筋に達せる電報に依れば十五日午後一時頃同地駐在の支那巡警と採木公司分局を警備せる我憲兵との間に一大衝突を惹起し彼我發砲の末巡警及び憲兵補助員各一名宛の即死者を出せり急報に依り對岸惠山鎭より我守備隊出動し時に帽兒山方面の支那巡防兵亦急遽同地に向へりと

新設 京城俱樂部

娛樂と料理を兼ねた京城唯一の社交機關

京城には一二年以來、カフエーも出來た、バーも出來た、社交上の意味を含んだ娛樂場も二三は受ける、俱樂部もある。然し料理店は料理店に限られ、娛樂場は單に娛樂のみ、俱樂部に至つては官衙會社又は個人關係に限られてゐる觀がある。之れ料理娛樂を兼ね社交上の機關に公開された俱樂部といふものは殆んどない。之は智識階級の多い堂々たる京城として些と氣耻かしい次第ではあるまいかと思はれる。歐米諸國は勿論內地の各都市には此種の俱樂部は大抵ある。乃で此の點に着眼したのが高識の大和ホテルから先達て廢業したソンタクホテルに轉じ營業前迄同ホテルを切廻してゐた下司利枝氏である。幸ひ壽町日出學校の上隣に適當の家屋を見附て茲にその所期の理想を實現すべく「京城俱樂部」と銘打つて開業した。俱樂部の正面入口には球戲臺があり階上は食堂になつてゐる。更に奧まつた所に八疊敷二間六疊敷二間の日本座敷、その他に溫突等があつて圍碁、將棋、ピンポン、及び各種の樂器類、內外の新聞雜誌を備へ前記の各室は自由に開放してある。場所は閑靜、落ついた心持で會合、集合、宴會、娛樂を試みようとするには持て來いである。更に此處の特色とし且つ誇りとする所は元ソンタクホテルのコツク長であつた岩永佐市氏を聘して純佛蘭西式の料理を提供する事だ。佛蘭西式の料理を食ぬ人は洋食を語る資格はないとも言へよう。佛蘭西式の割烹に至つては岩永氏に及ぶ者は京城にはない。その料理が最も安く手輕に味はへ三四十人の宴會なら八十錢位から出來る。そして持ち出し宴會もすれば出前もするといふから至極便利である。どうも世の中が忙はしくなつてくると訪問し合つたり料理屋などで逆則する代りに斯る場所で簡單に親交を結ぶ事が吾々の生活に必要になつてくる。此の意味から紳士連の贊同も多く頗る時機に適したものであるといふ事が出來る

十七日夜の家庭博 引景品渡所の盛況

◎連絡船上陸客　十七日午後入港高麗丸一二等客

十七日午後釜山入港壹岐丸一二等客　一等(六名)阪谷輝二、井坂季、大迫武吉、青木貞一、外人二名　二等(四十二名)…(以下氏名略讀不能)…三等(二百〇九名)

京 家庭博へ　共進會も京城日報の家庭博も閉會までにあと十日餘りしかありませぬ早く御覽にならぬと千載の悔をのこす事になります

京 家庭博へ　破天荒の家庭博大景品デー　面白い事此上なし今明日は飛入賞品多し

家庭博覽會大景品寄附者

▲味噌(五貫目入)十樽 ▲白炭十五俵 ▲十圓票二千包 ▲麥酒一箱タオル廿筋 ▲淸心保命丹(十錢入二百袋) ▲蓄音器一個 ▲雜誌類百冊 ▲味の素三百個 ▲レート白粉三千個 ▲クラブ化粧品三千個 ▲ミルクキャラメル百個 ▲クラブ化粧水ゼリー六百個 ▲プロペラー三千五百個 ▲朝鮮地圖五十部▲水筆五十本▲紙挾九十個▲專賣特許インキ壺一打▲ホツク付價中手帳三打 ▲ステツキ十本 ▲野菜切十個 ▲九谷燒盃二十個 ▲白米一俵 ▲石炭五叺 ▲森永券三十枚 ▲サクラ麥酒一箱 ▲菊正宗鑵詰五十本 ▲手帳五十冊 ▲吊(十枚) ▲醬油鑵詰(五打) ▲ジヤツキ(一挺) ▲ナイフ(五十挺) ▲鄙味噌(百貫目) ▲朱塗盆(四十枚) ▲大正足袋(二千足) ▲日本便覽(四百八十部) ▲小說妻(三百冊) ▲上等繪葉書(五百組) ▲地圖(三百枚) ▲過去の罪(百冊) ▲年鑑(三十冊) ▲もゝぶやバツク ▲しるこ(三十) ▲しるこ(三十) ▲野菜菓子三十袋 ▲エメラぬか三百個 ▲タオル二打

遠藤商店　川西商店　廣江商會　日本麥酒會社　濟生堂　大正足袋　大坂屋　平尾商店　鈴木商店　中山太陽堂　中島支店　朝鮮煙草會社　町川文太郎　柳谷伊之助　金子質　戸江安之助　渡邊傳吉　三國商會　花月　山邑京城支店　帝國麥酒會社　山邑京城支店　三越吳服店　高杉醬油店　鐵切榮次郎　同上　島屋販賣店　平田商店　大正足袋店　萬年舍　京日代理部　同上　同上　同上　同上　ちゝぶや　仲事堀(場內)賣店　朝鮮室(場內)賣店　山崎(場內)賣店　月本商店　松坂屋

演藝案內

壽座　壽町　電話五七八　鮮明優雅、嶄新奇拔大活動寫眞　□新派「人の恩」上中下　□舊派「松平騷動」上中下　□泰西探偵劇「闇黑城」上、中、下、　天然色活動寫眞…

黃金館　黃金町四丁目　電話二六三七

龍光館　龍山停車場前　電話(龍山)四四番　▲十月十三日より三大寫眞…軍事大活劇「鐵壁」…新派悲劇「花筏」…

佐久良座　龍山　▲本月十五日初日向三日間畏子節讀物(柳澤民部)長講二席　花川圓玉

日本は武士道の國也　武士道の龜鑑たる大正館の忠臣藏　愈本兹一兩日限りにて去る見落せし人はなきや

御成座　旭町　電話二九一

大正館　櫻井町　電話八七　●十月十三日より臨時特別大興行…

見逃す勿れ！　黃金館の二大寫眞　軍事活劇 鐵壁 七千尺　新派悲劇 花筏 五千尺

有樂館　本町　電話二六六　新築落成　十月十五日より大絶賞提供…

浪花館　明治町　電話二六〇番　●特別大興行　東京落語大一座　桂小南一行來る…

一千反限りの投賣　流行新機 高貴織　一反只の貳圓貳拾錢　數年吳服類の格安亂賣をなし已に數十萬の御得意先を有し手堅く營業をなしつゝある東京市日本橋區本石町一丁目吳服問屋國谷商店にて今回一千反限りの大賣出しをなし日々大山を築く程大賣行をなしつゝある新流行品新機高貴織は柄合の奇拔なる地質と云ひ光澤と云ひ一見十圓以上の本場高貴織に負けぬ上品也而も一反タツタ二圓三十錢と云ふ丸で只の樣な馬鹿値に投出し大賣出しの紀念として一反の注文に一新柄新羽二重片側女帶地の無代進呈をなすと云ふ實に他店の模倣の出來ぬ思ひ切たる大英斷也因に地方の希望は同店宛ハガキにて男女別年齡を記し申込ば責任を持て柄合見本を選び代金引替送料も當店負擔で送る

京城協贊會廣告(第十回)

左ノ諸氏並ニ諸法人ヨリ各頭書ノ金額ヲ贈與セラレ本會ハ之ヲ名譽會員ニ列シタリ

大正四年拾月　始政五年記念朝鮮物產共進會　京城協贊會

金參千圓	三菱合資會社
金參千圓	三井合名會社
金參千圓	古川合名會社
金參千圓	大倉組
金參千圓	久原鑛業會社
金壹千圓	藤田組
金五百圓	明治鑛業株式會社
金五百圓	日本郵船株式會社
金五百圓	大阪商船株式會社

合計金貳萬貳千圓也　通計金八萬貳千五百零壹圓六拾錢也

公告

一、順化院炊事場改築工事　此入札保證金ハ各自入札金高ノ百分ノ五以上

右工事入札ニ附ス請負希望ノ者ハ本府內務係ニ就キ入札心得書、設計書、圖面等熟覽の上十月二十日午前十一時限リ本府內務係ニ入札スヘシ即時開札ス　本契約ハ朝鮮總督府府尹金谷充擔當ス

大正四年十月十六日　京城府

祝 共進會紀念即賣會　書畫、骨董、ヒスイ、高麗燒　貴顯紳士諸彥の御土產に適當品澤山　本町二丁目通(電話七八四番)　京城競賣株式會社　自午前八時至午後六時　正札附陳列　縱覽無料

目ぐすり中の目ぐすり　岸田精錡水

兩京去留誌

簡淨疎宕なる山川人物の描寫　明快透徹なる朝鮮側面の觀察

蘇峰學人著　平福百穗、山下鉤、鶴田櫟村、柳田謙吉、前川千帆(五氏畫)

本書は著者が朝鮮併合(明治四十三年九月)より今年夏に至る迄、五箇年に亙り屢々東京、京城間往來の際に成りたる文章を收輯したるものなり。著者の兩京間に往來するや其の幾回なるかを知らず。而も其の往來毎に感興愈々新鮮にして、其の秀警の觀察と獨特の靈筆を揮つて兩京間の天然と人事を叙するや、雲烟飛動し人物躍如たるもの固より其の所なり。或は途中過眼の光景を記し或は觸目の偶感を叙す。不用意の文字眞情流露し、而も簡淨疎宕小品の妙を極む。特に「雲養集を讀む」の一文は、朝鮮の碩儒金允植子の人物と文藻を解剖して剩す所なく、「朝鮮統治の要義」は五十頁に亙る長文にして、著者の朝鮮統治に對する經綸を吐露して萬丈の光焰を揚ぐ。加之、平福百穗氏を初め諸畫伯の繪畫は皆實境に臨んで描く所に係り、咄々眞に逼るの妙あり。其他各地の風景、名流の筆蹟等悉く本書の爲に特に撮影し、若しくは著者の爲に特に揮毫せられたるものにして、凡て三十二葉の多きに上り、製版印刷俱に異曲同巧の出來榮を呈し、著者の文章と對照して興味津々たり。裝釘は總クロース上製となし、表紙に朝鮮の古甕を打出し、表題は金文字を用ふ。體裁淸雅高尙にして眞に几上の淸賞に堪へたり。今や節新秋に入りて燈火親む可し、請ふ幸ひに愛讀を賜へ。

記事內容一斑

◎沿道所見 新橋より京城(一…七)◎短信三片 途中歡迎の諸友▲朝鮮晴の好天氣▲今朝寺色滿南山◎朝鮮各地の視察◎秋晴一百五十里 光景の一轉化▲六甲山腹の理想鄉▲楓葉尙ほ青し▲奈良一日の淸遊、京城愛吾廬より▲萬戸搗衣聲▲北漢山に上るの記(一…三)▲石坡亭の雅會▲深秋の總督邸・湖南線一部開通▲京元線の試乘◎一路寒風吹蘆荻 愛吾廬より啓上▲鐵路馬關より▲山陽沿中▲京都より◎一年兩度の櫻花 幾年入洛▲馬關直行▲連絡船中より▲釜山より京城▲一年兩度の櫻花▲總督府の紙屑、雨中の大運動會▲內地化したる京城▲釜山より大阪▲六甲山と須磨◎一年の好季節 母校と東山▲桃山御陵參拜▲汽車中の立讀み▲一年の好季節▲十三日夜の總督邸▲金剛閣の晩餐▲海峽航行中より◎愛吾廬雜信◎訪人訪書の旅行 最上の小春日和▲仁王山と相對す▲會寧一行と邂逅▲淸涼里に遊ぶ▲仁川沙魚釣の記▲佛國寺の秋▲昌德宮の秋色▲龍山陸閣の神嘗▲栗空先生と閔氏の墓の記▲小宮の大宴▲明治天皇祀念祭▲十一月三日の夜▲桃園の招待▲仁王山一日の記 湖南の滿鐵▲開城に遊ぶの記▲山寺道中の紅葉▲六甲山より京都▲時雨の一日▲急行的寂寞記▲防寒經記◎避熱旅行 京城雜信(其一)▲同(其二)▲隱人日記▲漢江の魚と人◎双京幾往還 隨處散策▲太師亭▲朴子爵邸午餐▲家情側聞人事◎往來二千日 炎昧大啣▲比斯麥の家書▲宮島より京城▲平壤の京城▲汝よりも人▲關中の若侯▲實踐實行の歩▲高麗板大藏經▲往來二千日▲鷹嶋兩喉蝦吟◎愛吾廬記(子爵金允植記)◎雲養集を讀む(一…六)◎朝鮮統治の要義(一…十)合計十五篇一百三章二百七十四頁

繪畫寫眞目次

◎海峽航行中の著者(三色版)◎在慶州新羅武烈大王陵碑龜趺(寫眞版)◎北漢山(ジンク版)◎洗劍亭(ジンク版)◎漢江(ジンク版)◎子爵尹德榮氏別墅碧樹山莊より南山を望む(三色版)◎愛吾廬に於ける冷淡の生活(寫眞版)◎愛吾廬より仁王山を望む(三色版)◎淸凉里(木版)◎昌德宮祕苑(木版)◎山縣總監の自畫自贊(寫眞版)◎朝鮮街(木版)◎明石中將の自畫自贊(寫眞版)◎鮮人の天長節(ジンク版)京城獨立門畔城壁上の大銀杏樹(寫眞版)◎獨立門外廢寺の五輪塔と著者(寫眞版)◎諸名流筆蹟(寫眞版)◎鮮人の家屋(寫眞版)◎鮮婦浣紗(ジンク版)◎野田大塊翁の自畫自贊(寫眞版)◎鮮人の船(寫眞版)◎麻浦(ジンク版)◎太華亭(ジンク版)◎愛吾廬同人庭前の小集(寫眞版)◎子爵金允植氏の德富氏送序の筆蹟(寫眞版)◎故伊藤公自筆南山脚下の詩(寫眞版)◎朝鮮總督官邸に於ける寺內伯(寫眞版)◎寺內伯書故伊藤公南山脚下の詩及び跋語(寫眞版)◎寺內伯書和歌(寫眞版)◎寺內伯書鴨綠江鐵橋落成の詩(寫眞版)◎寺內伯書早發の詩(寫眞版)◎寺內伯書慶州懷古及び乙卯誕辰の詩(寫眞版)合計三十二種

總クロース上製函入　定價金壹圓五拾錢

賣捌所　京城太平通一丁目　京城日報社代理部　振替京城三〇〇番

大阪三品特電　十八日前場　下關期米特電　十八日前場　釜山米穀　京城米穀

越後大評定

第十七席 早川貞水口演

秀忠、秀康の對面

此とき將軍秀忠公、何と云つて宜からうかと思召した『越前遠路大儀』とも云へぬ、去りとて『三河守』とも兄上に對して呼付けにすることも出來ない、此の言葉に御苦しみになつて『越前家には、遠路參覲御苦勞に存ずる、拜賀の禮、誠に喜び申す』と仰せられる、越前家と仰つしやつたそこで徳川家御繁昌の頃ほひは『越前家』と云ふ家號を賜はつたので、『越前家〳〵』と申し上げるやうになつたが、其起因は秀康公からでありまする、他の御三家より、御扱ひが重く

なつたのであります、愈此御式御禮が濟んで、御席が變ると、二代將軍家には、兄上の秀康公を上へ直し『是は〳〵兄君には久々にて御入來、麗しき拜顔を得て、誠に秀忠喜ばしく存じます』二代公御臺樣は、太閤殿下の御養女となつて、お伊豫の方と云はれたが、是は淺野長政の娘淀殿の妹、お江の方と申し上げて、一旦大和大納言秀長公に嫁し、秀長公死去の後、徳川家へ御再縁になつた、頗る美人で御坐います、其御臺樣も御出御になつて、越前家へ御挨拶があり、御夫婦揃つて御斡旋なさる 將『兄上には、御國表には、何ぞ變りしことは御坐らぬか』と御尋ねになる 秀『是は秀忠、變な事を承はるもので御坐る、其許は兄秀康の國表に、變りし事のあるのを、待ち居られるか』 將軍『ハツ』と思召し『是は迂濶御世辭も云へない』と與

赤に御成遊ばす 秀『イヤ別に變つた事はないが、城下に徳川と云ふ河が出來て、其河下を世良田川と云ひ、河上を徳川と云ふ、然るに此水不思議に、近頃河下より河上に流れる、何と不思議なものではないか、雨が降ると下駄を濕して、傘を穿いて居ると云ふ、逆まちや、是は舍弟の其方が將軍職に在り、兄の秀康が越前福井にて七十五萬石、イヤ是等からして斯る變りし事があるものと見える、ウハヽヽ』 ハツ』御笑ひになつた、此時に秀忠公は赤面遊ばし、何としたら宜からうと思召す内に『最早たち歸る』と仰つしやつて、御出座になり、御下城になつた、後にてお伊豫の方は、大閤殿下の御養女を鼻に掛けて居らつしやることとて、誠に御機嫌あしく、『御裏方へ御引取りになりまする』秀忠公御居室に歸られて『予は望んで將軍職に就いてをるでなく、父君の仰と云ひ、臣下の勸めに依り、此の如く二代目を相續いたするなれど、兄上は之を御不滿に思召し、今日の彼の御言葉、誠に道ならぬと思へば、一日も將軍の職に在ること心苦し、切腹いたして相果てるならば、兄上秀康公、二代の將軍職、御相續あそばされんも知れず』如何いたさんと、御思案、御食事も進みます、此事何者か申し上げたりと見えて、大久保彥左衛門登城

二代公に御目通り致し『恐れながら此度の御家督御相談の儀は、臣下一同より願ひ出でたることにて、二代將軍に宣下あそばされしこと秀康公が如何やうな御言葉あろとも何も御心に掛け給ふこと是なく、御安心あそばすやうに』と御心を慰め奉り直ぐに駿府城へ早飛脚を以て、此事を申し上げましたから内府大御所は駿府御城から、越前家へ對し『秀康遠路參覲御苦勞に存ずる、歸路は駿河へ立寄られるやう』との御言葉、御父上からして御沙汰を受けたる秀康公『ア、此處は面白くなし、江戸へ滯在するよりも、駿河へ參り久々にて御父君に御目通り致さう』と俄に御出立の御沙汰があつて將軍家へは寛緩御暇乞もなさらず、江戸城御發足に相成りました。

大割引 自動車
新羅一千年間の舊都(朝鮮の奈良)慶州に遊べ
京釜線大邱驛より快走タツタ二時間と半!更らに一時間にして迎日灣浦項港に達す

本場 ちゞみ銘仙 新荷着
京城本町二 ちよぶや
電話八九〇番 振替三〇二番

十月二十日九星 舊九月十二日 甲午 本命四綠 闘門 友引

△四綠 實迎臭き懸引事有日 新事見合北方は吉 暗劍殺△五黃 一寸入賽損の事有日 新事手控宜事は吉 紹介請印等を禁ず△六白 平運の日(午前不印午後は吉) 新事手控 普事困難は妨なし△七赤 やり損じの事有日注意 新事手控萬事堪忍た植ゆるは吉△八白 一利一害の日さし控へ 新事控目の方吉 普請土工は妨なし△九紫 發達の日新居入門金談名弘 建築求職婚禮電信利用祭等萬吉△一白 賣收の日轉居旅行 入學名弘 棟上求職金件結婚旅行始め等皆吉△二黑 摺がれ迷惑の事有日新事手控萬事は吉父散財を防がるべし△三碧 清與の日 轉居旅行入門名弘求職 金件出逢婚禮開業を開く 等萬吉

公告

京城地方法院

左ノ不動產ヲ左記ノ日時ニ於テ競賣ニ附ス競買保證金ハ申出額ノ十分ノ一

●始興郡君子面正往里三百九番
田一千八十八坪
最低競賣價額金十三圓也
同郡同所三百十番
田八百五十五坪
最低競賣價額金二十五圓六十錢也
同郡同所三百十三番
畓五百九十四坪
最低競賣價額金十二圓也
同郡同所三百三十三番
畓二千七百三十二坪
最低競賣價額金三百二十七圓八十錢
同郡同所三百二十三番地
田六百十五坪
最低競賣價額金七圓五十錢也
同郡同所百七十三番
畓六百二十八坪
最低競賣價額金三十七圓也
同郡同所十六番
畓一千一百六十四坪
最低競賣價額金九十三圓也
同郡同所三百一番
畓一千六百七十一坪
最低競賣價額金百三十四圓也
同郡同所二百九番
田五百十八坪
最低競賣價額金二十八圓七十錢也
同郡同所二百八十七番
田三百九十二坪
最低競賣價額金十五圓七十錢也
右競賣申立人 崔性休
不動產所有者 朴永俊

●京城府黃金町一丁目百九十二番地
木造瓦葺平家建本家一棟(一)
建坪十六坪一合五才
最低競賣價額金一百二十八圓九十二錢也
同所
木造瓦葺二階建本家一棟(二)
建坪三十五坪四合五才
外二階坪九坪四合九勺
最低競賣價額金二百七十圓九十錢也
右競賣申立人 釘本藤次郎
不動產所有者 鍋島朝興

●京城府昌信洞二百三十六番地
垈五十二坪
最低競賣價額金六十二圓四十錢也
右地上ニ建設
木造草葺平家建本家一棟
建坪八坪三合八勺
最低競賣價額金八圓三十八錢也
右競賣申立人 申泰順
不動產所有者 鄭英龍

●京城府松月洞百三十二番地
垈二十六坪
最低競賣價額金五十二圓也
同地上ニ建設
木造草葺平家建本家一棟
建坪十一坪七合八勺
最低競賣價額金二十三圓五十六錢也
右競賣申立人 羽多野茂八
不動產所有者 翟景選

●高陽郡恩平面弘智洞第一一二番地
垈二百三坪五合三勺
最低競賣價額金二十一圓也
同郡同所第一一三番地
田五千三百二十坪三合四勺
最低競賣價額金六百九十一圓也
同郡同所第一一四番地
田五百三十五坪四合
最低競賣價額金六十九圓六十錢也
右競賣申立人 金東圭
不動產所有者 黃永善

●京城府蓬萊町一丁目九十番地
垈六百四十一坪
最低競賣價額金三千八百四十六圓也
同地上ニ建設
煉瓦造瓦葺平家建倉庫一棟(一)
建坪六十二坪九合二勺
最低競賣價額金八百十八圓也
木造鉦丹葺平家建倉庫一棟(二)
建坪六十二坪九合二勺
最低競賣價額金四百四十圓也
木造鉦丹葺平家倉庫一棟(三)
建坪六十二坪九合二勺
最低競賣價額金四百四十圓也
木造鉦丹葺平家建倉庫一棟(四)
建坪六十三坪八合六勺
最低競賣價額金四百四十七圓也
木造鉦丹葺平家建倉庫一棟(五)
建坪六十三坪八合六勺
附屬鉦丹葺木造平家建倉庫一棟(六)
建坪一百八坪五合八勺
最低競賣價額金八百二十七圓也
右競賣申立人 市村貞雄
不動產所有者 朝鮮倉庫株式會社

●始興郡君子面正往里五百二十一番
七統七戶
木造草葺平家建本家一棟
建坪十一坪二合五勺
附屬木造草葺平家建一棟
建坪九坪
最低競賣價額金七十一圓也
右競賣申立人 崔性休
不動產所有者 朴壽會

●京城府通義洞百十二番地
垈十六坪
最低競賣價額金四十八圓也
同地上ニ建設
木造草葺平家建本家一棟
建坪九坪七合三勺五才
最低競賣價額金三十八圓九十四錢也
右競賣申立人 趙行俊
不動產所有者 李順泰

●京城府杏村洞二十四番地
垈百二十六坪
最低競賣價額金六十圓也
同地上ニ建設
木造草葺平家建本家一棟
建坪十四坪二合八勺
最低競賣價額金十六圓也
右競賣申立人 梁時[illegible]
不動產所有者 朴元植

右競賣期日大正四年十月廿五日午前十時トス

朝米
致富之寶無代進呈
前金註文は紹介を要せず
大阪堂島米穀取引所仲買人 ㊣ 橋本猪作
電話長東 [illegible]
振替口座大阪 [illegible]

優良石鹼 花の都
マスト石鹼發賣元
東京 大阪 野村外吉商店

新會員募集
見本無代進呈
獎學金提供
一ケ年卒業
實業講習錄
總裁 大隈伯
副總裁 澁澤男
顧問 文部大臣高田早苗 農商務大臣山本達雄 法學博士新渡戶稻造 慶應義塾長鎌田榮吉 商業會議所會頭中野武營 日本郵船社長男爵近藤廉平 三菱合資會社豐川良平 森村組主森村市左衛門
科目 商業簿記 商事要項 商業經濟 作文 珠算 銀行簿記 講話 商業實務 商業地理 習字 商業英語 商品學
入會金全免 每月一回發行
獨學成功を欲する者の爲に無二の良師なるは勿論「甲種商業學校學生」も本講習錄にて優等となりたる者多し學生の入會を望む
□會費月一五十錢 □廉價無比
實業之日本社
東京市京橋區南紺屋町 帝國實業講習會 振替東京一六〇

日本チエイン製造株式會社・本邦唯一ノロイド公認・日本・プルーウヰング・ハウス・
取締役 阿部億次郎
資本金 金拾五萬圓
一ケ年生產額 約五拾萬圓
設立 大正四年三月
專務取締役支配人 伊丹重太郎
商標
營業 (各種チエイン及附屬品ノ製作並ニ各種ロープ等ノ試驗依賴ニ應ズ)
材料 (英國ヒングレー社製ノモノヲ直輸入ス)
製造 (總テノ作業ハ全部機械力ヲ應用ス)
試驗機 (オルセン社製ロイド證明附二百五十噸ノモノヲ据附ケ大阪工業試驗所及海事協會ノ證明ヲ受テ發行セラル)
大阪市西區石田町壹番地 電話西五三九番

新式の美容液
眞底から美くしう ホンノリと色白くなる
レートフード

自然で上品
レートフードは今迄になかつた新化粧料で如何なる化粧にてどんな化粧術をしてもレートフードを使つた程ホンノリと色白く自然に上品なお化粧をする事は出來ません誰方の肌にも適つて之れを養ひ活々とした色艶を出す事は實に不思儀な位で之れ程目に見ゑてメキ〳〵と美くしくなる化粧料は外にありません……かくし化粧によく男子方にも至極よろしい……
お邸でも町方でも非常な評判
東京 大阪 平尾贊平

ウマイ ウマイと
フェロールを(一名滋精)
飲むうちに病人は力附き虚弱者は健康に健康者は益々强壯に病を知らぬ人となる
フエロール 美味葡萄酒以上 酒精分少もなし 驚くべき滋養分 理想的の强壯料 フエロール
大瓶(半月分)壹圓八拾錢 小瓶(七日分)
創製元 大阪道修町 藥劑師 小西久兵衛

賣捌は各藥店にあり

仁川期米

▲漸次腰入來る

▲動機到來乎

仁川米豆取引所

平均値段 一節 八圓五十七錢 二節 八圓五十五錢 三節 八圓五十六錢 四節 八圓五十九錢 五節 八圓五十九錢

京城日報

年中無休刊 (第二千九百四十號)

定價 一部金三錢五厘 一ヶ月金六拾五錢 三ヶ月金壹圓九拾錢
廣告料 五號活字一行金七拾錢
發行兼編輯人 奥田直 印刷人 政太郎 太平通一丁目 發行所 合資會社 京城日報社

朝鮮統治の成績

第三 堅實なる爲政者

蘇峯生

明治四十三年八月、日韓併合は、實に第二次桂内閣の時に成れり。而して爾來今日に至る迄、第二次西園寺内閣、第三次桂内閣、山本内閣を經て、大隈内閣となり、其の大隈内閣も、去る八月に改造して、漸く其の位置を維持しつゝあり。我が帝國の如き、百揆悉く擧り、諸務緒に就きたる國柄に於ては、一年に一回づゝの内閣更迭あるも、必ずしも好ましき事にはあらざれども、亦た決して深く憂とす可きにあらず。但だ朝鮮に於ては、此の筆法を應用する能はざる也。何となれば併合日尚ほ淺く、人心未だ定らず、動もすれば浮言相ひ揺かし、流説相ひ惑く。而して此の民情の不安に乘じて、禍心を包藏し、野望を逞うせんとするの匪徒の勃發、嘯聚するや、火を睹るより明かなれば也。我が伯爵寺内總督は、蓋し此に見る處あり。一たび聖天子の大命を奉じて、此の半島に臨みしや、内地に如何なる變動あるも、政海の狂波が一起一倒するも、更に顧著する所なく、只だ一心不亂に、併合當初の大主義、大目的を遂行、貫徹せしむるに努力したり。啻だに寺内總督其人の位置が、今日迄維持せられたるのみならず、其の主義、目的が確守せられ、把持せられ、而して歩一歩事實に實現せられつゝある也。吾人は寺内伯の耐久力を嘉みすると同時に、歴代の内閣が、半島施政に就て、概ね之を寺内總督に一任し、更に餘計なる容喙を試みざりしを多しとせずんばあらず。然も若し總督其人を得ざるに於ては、内地よりの干渉は、招かずして自から到る可し。否な如何なる時節にも、異論は存する也。餘計なるお節介は存する也。總督にして若し十二分の自信力なく、且つ之を主持する勢力微りせば、必ず此の五年間には、種々の障碍、困難には觸著す可かりし也。然も遂に外間に向て、何等の變徵を暴露するに至らざりし所以は、實に我が寺内總督の、他人より見れば、餘りに執著に過ぎたりと思はるゝ程、其の所信に向て、直前勇進したれば也。

併合の功成るや、寺内伯の友人は、寺内伯に勸めて、東京に還らんことを勸告したり。曰く併合は大功也、今後如何なる成功を博するも、之に加ふる所なかる可し。而して却て小蹉跌の爲めに、此の大功を傷くるの虞あり。寧ろ創業の餘を、已に取りて、守成の易きを他に讓らんにはと。是れ寺内伯個人の爲めに計りて、或は最も巧妙なる處世の策たりしならんも、未だ知る可らず。されど王臣蹇々、唯だ報効を知りて、身あるを知らざる者に於ては、若し至尊の大命によりて、解任若しくば轉任とならば、いざ知らず。自から大命を奉じて、開始したる事業を、中途にして拋却するが如きは、決して其の本志にあらざる也。然も之をして其の効果を奏せしむるに到りては、更に其の困難、此れに倍するものなからずや。固より難し。併合の業若し或は其道を誤らん乎、併合の名ありて、其實全く擬せずんばあらず。嗚呼豈に敢て易しと云はん哉。吾人は寺内伯が、一身の得失利害を無視し、半島の爲めに、五年の辛苦、經營を事としたるを見て、實に今日の成績の偶然ならざるを認識せざらんとするも能はざる也。

大共進會 出品概觀(卅)

第二號館(教育部)

第八部教育は二號館入口大通路の右手に在りて陳列面積約九十五坪を占む、今陳列の重なるものを擧ぐれば左の如し

新舊教育の對照は學務局の出品にして兩者の狀況を瞭然たらしむる爲め舊教育の書堂、郷校、成均館の科學備生作詩の油繪五枚と新教育の普通學校遊戲、高等普通學校體操、普通學校勅語奉讀式、普通學校手技、農業實習、女子高等普通學校手藝實習、普通學校國語教授、商業學校商業實習の寫眞とを掲げ五間の上下に亘りて精細に對照せしむ、而して圖表も亦學務局の出品なるが學校分布圖並に各種の圖表を掲げ既往五箇年間に於ける教育の經過を顯知せしむる恰好の意匠なり、海中生物生態の模型は綿油の背景を附し海中の生物數百種の模型を配列して其の生態を知らしむるを期せり、陳列有益の出品にして京城高等普通學校の計畫なり又た虎、黑禿鷲の剝製は猛虎の後に油繪を配して自然生活の狀態を模せり黑禿鷲は内地に産せざる珍しき大鷲にして共に京城高等普通學校教師の製作に係るものとす、之れに次ぐ剝製の模型額は雉の剝製器の模型、松茅の質物を配して製作したる美麗の額面にして同じく京城高等普通學校教師の製作なり、理科簡易器械は廢物を利用し安價に器械を製作し得ることを示したるものにして普通學校理科書の順序に依る道は一般學校の參考たるべく京城高等普通學校生徒の製作に係るものとす、其他朝鮮在來の俗字略字を研究したるもの俗字略字の研究は多年苦心研究の跡を窺ふに足るべく圖書習字張交の屏風は屏風の骨組、表裝等總て生徒の製作に係り之に生徒の論語、習字を張交たるものにして京城高等普通學校の出品なり冠婚葬祭の人形は京城女子高等普通學校の出品にして朝鮮風俗を知らしむるを目的とし衣類一切は總て同校生徒の裁縫又は刺繡に係る、内鮮人觀覽者共に多大の感興を惹くに足ることを得べし、之れに隣れる特別陳列室は和鮮折衷の居室を模し京城女子高等普通學校の出品を陳列したるものにして其の主なるものは同校生徒の製作の刺繡屏風、總督の揮毫に係る「參知面動」の額面、造花手藝品其他にして教育部内の一美觀たるを失はず又た朝鮮人日常食品及び副食物の標本七十餘種を蒐集せる朝鮮食料品の標本は日本人に取りては好個の參考資料たるべし 場の中央に据えたる地球儀は京城中學校附屬臨時小學校教員養成所生徒の製作に係り、直徑五尺世界の現狀を示したるものにして回轉裝置となし觀覽者の歩を止めしむ、無線電信及び電磁石は京城中學校の出品にして何人にても自由に實驗せしめ得る様に裝置あり、又教授訓練の狀況寫眞は地球儀の側面其の他を利用し教授訓練に關する寫眞を掲げ出品者たる京城中學校の現狀を知らしむ、教授訓練の方法及び成績は公私立學校の出陳に係り内地人教育朝鮮人教育共各學校教授訓練の方法及び成績を敍述したるものにして其の數約二百餘點の多きに達し朝鮮教育現狀の一斑を了知することを得べし、又た鄉土史料は朝鮮全道各府郡公立普通學校長の調査に係るものにして鄉土の研究をして教育の資料たらしむるもの、[illegible]の實際如きを見る其研究の調査の苦心を窺ふことを得べく、之れに次ぐ生徒成績品は内鮮人教育を通じ多くの展覽會等に於ける出品物の如く單に成績のみを示さず席次、嗜好、所要時間、練習回數、[illegible]通の課程、平素の[illegible]正方法等教育上參考となるべき事項を精細に添付せるは當事者の苦心の存するところにして最も有益と稱すべし、而して朝鮮人教育中稻麥發育の順序標本は各農業學校の發芽、挿秧、開花、收穫時の稻並に米麥の比較標本にして之れに期日、氣象、經度、緯度等を顯はし以て斯道有益の參考資料たらしむ

教育部出品と冠婚葬祭の人形 ―共進會第二號館―

閑餘隨錄

大谷光瑞

三、香(承前)

金光明最勝王經に說くが如き三十二味を合するが如き、最精の一例とす可し、而も身に著くる所は、經羅漸く半身を覆ふに過ぎざるを以て、渾身に金珠の瓔珞を裝ひ、之れに塗るに香料を用ひ、北人の如く衣服に芳香を薰せしめず、南人に在つては、香料は寧ろ必須の要具にして、北人の如く奢侈を以て見る可からず、故に香料を用ふるに、焚香の儀なきに非らざるも、北人の炭爐と香料と一家の感あるに似ず、人己に香料を用ふるを喜ぶ、故に尊貴する佛天の供養に之れを用ふるに至れり、佛教の傳來と共に支那及び本邦に及べり、北人は香を用ふる南人に及ばずと雖も、漢武西域交通以後、漸次其器用を增加し、六朝より唐代に及んでは豪貴の奢侈に香を用ひざるなし、開元天寶の道事の如き當時の狀を記せり、從つて焼香の法亦印度と異なり、別に香爐を用ひ、印度は用ひざるに非ざれ共支那は必須具となせり、故に香爐なる文字を生ずるに至れり、博山香爐の如き有名なる器具あり、古樂府に歡作沈水香儂作博山爐の句あり、李太白は更に之れを敷衍し、博山爐中沈香火雙烟一氣凌紫霞と云へり、香の主要なる部分を燃燒に依つて之れを得んとす、蓋し寒夜二更爐火紅環堵一龕春盎なるときは、香烟芳名又云ふ可からざる快適なり、共用途既に異れり、北人又重裘寒を禦ぐ、故に衣袂に芳香を漬せしめ、渾身に塗布せず、本邦又聞香の戲あり、然れども皆燃燒を用ふ、唯直ちに火中に投せず雲母片上に熱するのみ、夫の製香の術に至りては、各國其方を異にし、萬捷測る可からず、近時は佛國最も名あり、然れども英獨敢て讓らず、我邦又往古より薰香の術あり家々相傳へり、西歐は多く液體となせり、而して衣服身體共用せり、燃焼は耶蘇教寺院に行ふと雖も、一般に多く行はず、故に香料自から東方と異れり、近時科學工業勃興し、類似の人工品を製出すと雖も、微妙の調香に至りては、猶參商の間あるは免れざる所なりとす、夫花を賞すに既に君子なり、香に至ては更に靜幽の境に入る、之れを愛す君子たらざらんと欲するも得ざるなり、若奢侈に香を用ふるが如きは既に香の賊なり、花を見て狂亂するの類なり、我之れを取らざるなり(此項完)

日報俳壇

雉子郎選

月

人散つて無月の濱の松黒し　雉子郎
月に行くや城壁に沿ふ道を　同
栖に飛ぶ蟲捕へけり陣の月　同

秋晴

洪水に壓し橋其まゝに秋晴るゝ　獨笑

天長節即事

秋晴や今朝思ひ立つ城めぐり　鹿中子

共進會

八道の寶庫開けり秋晴るゝ　陵雨

曹洞宗大學教頭 山田孝道師著

禪宗辭典

▼類似の書あり著者山田師に御注意を乞ふ▼

古今禪書の中に現れたる故事、熟語、俗語、器物及び禪宗の儀式、書籍の解題、高僧の傳記、禪に關する地名等禪門一切の事項は細大漏さず一々典據を擧げて簡明切確に解釋し且つ幾多の圖畫を挿みて説明を補ひたれば實に禪門の百科辭典と云ふべし而も其編纂は博學宏識の山田孝道師が深遠の心血を傾注して之に從事し且つ各派の系譜は禪宗史に關する蘊蓄と數年の研究とに通せる發起者孤峰鳥石兩師の補技を請ひ臨濟宗事項は釋宗演、鈴木子順兩老師に質して其完全を期せられたれば其正確なること知るべし參禪の士一本を購ふて此寶藏を打開せよ

四六判六號活字 廿七字詰廿二行 二段組千六百頁 春天金字布製 堅牢無類箱入 定價四圓五拾錢

特價 參圓五拾錢 郵税五拾錢

特價提供 限三千部

發行所 東京神田駿河臺袋町 光融舘 振替東京三三一三番

特約賣捌 京城 大阪屋書店

於大共進會

弊社製革は辱くも

賜閑院宮殿下御買上の榮

尚其褒賞授與式に於て

最高名譽金牌受領の

光榮を負ひ製品の優良と卓越せる技巧は輸入品に遜色なきと公衆の前に證明せられ候は江湖各位の深厚なる御同情の賜と感荷の至りに不堪候自今一層奮勵を以て御高志に酬ひんとを期し申候

京畿道永登浦 朝鮮皮革株式會社

京城南大門通 電話一〇八二 同 販賣店

朝鮮總督府屬 普成法律商業學校講師 西村眞太郎著

朝鮮語會話

特價 金七拾錢(但前金に限る郵税中受候)

●新刊大好評● 袖珍三百二十餘頁定價金八拾錢(郵税六錢)

發賣以來好評嘖々、日未だ淺きにも拘らず、破天荒の賣高を示したる本書は朝鮮語修習上害ありて益なき一切の不必要物を除去し、見掛上の體裁を避けて紙數の膨大を防ぎ、緊に堪へざる單語羅列式の死文字を滅却せり。又彼の言語を學ぶ者の最も困難とする動詞其の他の説明の如き、解釋綮に肯りて餘す所なく、一度本書を手にすれば、言葉の應用自由自在にして、所謂『きつぱり』としたる語を學ぶを得べし。而して初學の人士の爲めには巧妙に發音假名を附したるを以つて、世の徒に無駄骨折ること多年、苦心慘憺、漸くにして不自然的なる發音にして、多少の語句を暗記するの愚を避くるを得べし、既に本書の價値は世に定れる評あり。斯道の人士の切に學ばんと欲する朝鮮語の智識は本書に說き盡して餘蘊なし、敢て江湖に勸む速に本書を求められよ

發行所 京城日報社代理部 京城大平通一丁目 振替口座京城三〇〇番

大取次 大阪屋號 日韓書房 嚴松堂 修文舘 各地支局及書肆

時間表 (南行) (北行)

列強大戰

▲英國內閣 形勢頗る緊張

デーリーメール紙の信ずる所に據れば英國內閣は徵兵問題の爲め目下形勢頗る緊張し居れり(倫敦電報)

▲獨軍撤退

獨軍は露軍の爲に壓倒せられケルマシヤを撤退せり●ドウヰンスク戰鬪に於ける露軍の攻擊は依然繼續しつゝあり(露都電報)

▲封鎖宣言 勃牙利の海岸

倫敦來電に曰く、英佛聯合艦隊は勃牙利リヨイノチアン海沿岸を封鎖せざる旨發明せり(紐育電報)

◎龍駕東北に向ふ

大元帥陛下には豫て仰せ出されたる如く來る二十日より二十四日まで青森縣下にて擧行の陸軍特別大演習御統裁のため秋雨風を含んで降りしきる十八日午前七時三十分內山侍從武官長御陪乘波多野宮相以下夥多の供奉員を隨へさせられ上野驛に成らせられ八時伏見宮殿下を始め奉り各宮殿下、東鄕元帥大隈首相以下文武百官奉送裡に御機嫌最も麗はしく龍駕を弘前に進め給ひ午後五時十分仙臺驛御著輦直に御馬車に召させられ沿道官民奉迎裡に仙臺偕行社に入らせられ同所に御駐泊十九日午前弘前に向け御發輦遊さる(東京特電)

▲佛國宣戰

巴里來電に依れば佛國は勃牙利に對し宣戰を布告せり(紐育電報)

▲塞國の獨勃軍 獨軍の諸砲臺占領

獨軍はザイチヤクルの東の諸砲臺を占領せり察する處獨勃兩軍は相提携して塞國軍を二分せんと計畫しつゝあるもの如し而して塞國軍は勇敢に防戰し聯合軍は其前程を急ぎつゝあり(倫敦電報)

▲露勝報と擊沈

ミタヴの東方に於て獨軍は連續的砲擊を行へる後エカウ河を渡渉せるも間も無く押し返へされたり▲獨軍はミシロクの西南に於てミツセ河を渡渉せんと企てたるも露軍は之を阻止せり▲ドウヰンスク地方に於ける獨軍の攻擊は擊退せられたり▲獨逸の一飛行船はミンスクに爆彈を投下せり▲露軍はツエルトリスグ上部のスチル河にて敵の攻擊を阻止し又ガリウオロン河に於ける敵の猛襲を數回擊退したり▲波羅的海に於て英國潛航艇は獨逸運送船六隻を擊沈せり(露都電報)

◎皇室優待條件 北京政府の回答

北京政府は前淸皇室よりの質問に對し皇室優待條件として
一、淸帝の帝號保持
二、淸帝に對しては外國君主の禮を以て遇す
三、每年優待費四萬元を給す
四、淸皇室一切の財產は政府之を保管す
五、淸帝萬壽山遷居
の五件を回答せり(北京特電)

◎臨時約法制定 憲法に代用の議起る

國體解決と同事に臨時約法を制定し臨時憲法に代用すべしとの議起れりと(北京特電)

◎平政院長辭職

平政院長周樹模氏は近く辭職すべしと(北京特電)

◎龍口開埠近し

在北京小幡代理公使發外務省著電に依れば外交總長より七月十五日附公文を以て山東省自開商埠龍口は既に開埠準備大體整ひたるに付き十一月一日を以て稅關を開く旨紹介に接したり(東京特電)

◎文武官陞敍

正親町賞勳局總裁は御沙汰を奉じ十八日午前十一時宮中に於て文武官三百二十二名に對し勳章捧授式を行ひたり其の重なる者左の如し(東京特電)

陸軍少將正五位勳三等功三級 西川虎次郎
敍勳二等授瑞寶章
陸軍步兵中佐從四位勳四等功五級 大村純英
敍勳三等授瑞寶章(各通) 外二十三名
衆議院書記官長 岡崎國臣
敍勳三等授瑞寶章(各通) 外一名

◎白仁長官東上

白仁長官は十八日朝商船臺中丸にて門司著同船にて東上せり其の談に曰く日支交涉後支那政府は滿蒙問題に力を注ぎ鑛山調査蒙古土地調查事務司法事務經務の各局及び殖民銀行等を設置し利權の開發に努め居るに反し我政府は未だ何等施設をなさゞる三井、三菱等の民官事業家は目下大に調査中なり尙ほ軍隊引揚後支那人の邦人を侮辱すること顯著となれり(門司特電)

◎土御門子薨去

貴族院議員子爵土御門晴榮氏は豫て病氣の處十六日薨去せり享年五十七病氣危篤の旨天聽に達するや左の如く特旨敍位の御沙汰ありたり

敍正三位 從三位勳四等 土御門晴榮

◎岩崎男一行

岩崎男爵一行は十八日朝元山市中を視察し午前九時四十五分發列車にて京城に引き返せり(元山特電)

東京發別電

▲東京にも籌安會

支那の籌安會は東京に支部を創立したり其領首たる支那人は十七日夜留學生の爲め狙擊せられたり

▲支那公使館襲擊さる

十七日夜東京駐劄支那公使館員蔣士立は同公使館內に於て刺客の爲め襲擊され拳銃にて右腰部と右乳の上部を打ち貫かれて重傷を負へり蔣は袁總統の意を受け籌安會支部を設けんとし或る重役を勸め居れり

▲平和保障勸告乎

政府は支那帝政問題より支那に內亂勃發する慮あるときは支那政府に對し東洋平和の保證に關する保證を爲す可しと

▲米價調節標準

米價調節は十四圓より十八圓迄の間に調節する政府の見込なり

▲聯合國側の失敗

希臘羅馬尼兩國は飽く中立を守りて戰爭に參加せず塞國は愈々孤立となり巴爾幹の形勢は聯合軍側に全然不利となれり

◎林相の變化と國運の消長

『赤松亡國論』 東京帝國大學農科大學教授林學博士 本多靜六氏談

人の頭髮を分ければ產毛、黑髮、白髮、禿頭の四種となる樣に林相の變化にも四期がある一體樹木には

陰樹と陽樹との二種

があり陰樹の幼樹は親木の蔭の陰濕な處に育ち其保護が無ければ育たない陽樹の稚樹は別に其親木の蔭でなくても生育する事が出來る陽樹は陰樹林中には生育しない然るに濫伐や山火や其他の結果で陰樹が無くなると其後に陽樹が顯はれる更に之を亡ぼせば陽樹中最も強壯な赤松が生ずる其次が禿山である即ち第一期林相には樅、栂、樅などが繁盛する世に之を山毛欅帶と云ふ第二期林相には樫、櫟などが生える赤松の天然林は三期林相であつて人間で言へば白髮時代である禿山は其次に來る一體松は生立は寄生するけれども次第に樹齢が老ゆるに隨つて年々薄くなる樹立が薄くなれば土地が乾燥し雜草が生じて

遂には裸山になつて

終ふ然して第四期の禿山となれば一接には氣候の調和を破り暴風雨の害を蒙むり都市も田畑も山川平野にも惡影響を與へられる農商工業如何に進步すと雖も山林荒廢の結果其國は亡びるに到るであらう其例は世界中幾つもある獨逸は流石植林に注意して居る路傍河畔其他の空地にも必ず林檎、梨、杏等の果樹立ちが生えてゐる並び果實纍々としてゐる日本で云へば砂利置場など、立札してある空地が獨逸には更にない必ず樹が植つて其樹の下に砂利が置いてあると云ふ有樣である昨年ガリシヤでの戰爭に露軍を長驅した獨軍には兵糧が續かなかつた其時將士は皆

路傍の林檎を喰つて

驅軍したと云ふ事である此立派な森林帶を南にして一度アルプス山を超ゆれば山林は總て第二期の相を顯はし平地に下れば赤松林となつてゐる更に南下すればチロール州一帶百年以來の沙漠となる迄ては豐沃な小麥畑であつたシシリー島など今は見る影もなく荒廢して沙原が續いてゐる更に地中海を渡つてアフリカに上陸すれば沙漠は涯しもないチユニスから數里の處にカルタゴの遺蹟がある昔てハンニバルに據て名を知られた大都も今は沙原に茅草離々として處々に薔薇仙人掌の類が生てゐるヘドリアヌス帝時代のカルタゴは人口七十萬で四方に君臨してゐた其遺物が

今も尙沙漠の裡から

發掘される或は腕環、頸飾、鎖など金銀珠玉を鏤め今日巴里あたりの流行型は是等發掘物に源を發すると迄言はれてゐる間口五十五間奥行十八間其先は今發掘中でどれ丈あるか知れないと云ふ程の劇場などがある予は一小丘に登つて往時を追懷すれば徘徊去るに忍びないものがあつた。

◎朝鮮農會總會 十八日午後の講演

朝鮮農會總會は十八日正午休憩一同午食後午後一時より再會講演を繼續せり理學博士中井猛之進氏は『副業として藥草の栽培』と題して歐洲戰亂の爲め藥品が暴騰し之が動機となりて藥草の研究が我邦に盛になりし次第を說き朝鮮に於ける藥草栽培の農家の副業として有望なるを述べ次に農學博士豐永眞里氏は『麻類の將來』について朝鮮の狀況を詳細に說き新案新羅織の麻布に充分代用し得る所以を證し林學博士本多靜六氏は『林相の變化と國運の消長』と題し林相の變化に關し之を中心とし林相の變化が我邦に於て大に變ふべきものあるを詳論を交へて說述し終りに『文明なくして森林なく森林なくして文明なし』と絶叫し次に法學博士矢作榮藏氏は『農業金融に就て』の題下に朝鮮の農業金融機關に對する希望を述べ之にて講演を終り本田會頭は午前に委任されたる本會役員指名報告をなすべしとて左の如く推薦し同時閉會散會せり役員氏名左の如し

會頭 李完用伯 副會頭 本田幸介
評議員 中村彥、豐永眞里、齋藤音作、上林敬次郎、人見次郎、鏡保之助、和田常市、富田儀作、與田貞次郎、韓相龍

尙同日夜は朝鮮ホテルにて懇親會を開け十九日は午後七時二十分南大門驛發水原に赴き午前は勸業模範場にて講演會午後は模範場參觀の日程なり

日本の富力幾百億乎

▲神功皇后の三韓征伐時代に於ける日本の富力は僅か一億に千五百二十三萬圓に過ぎざりしが源賴朝が鎌府を開きたる時は四億餘萬圓となり豐臣秀吉が大阪城を築きたる時は十億餘萬圓となり元祿年間赤穗浪士の復讐時代には十四億三千萬圓となり米艦浦賀に來船し品川沖に砲臺を築きたる時には五十億八千餘萬圓となり明治王政復古當時は六十八億餘萬圓となり明治二十二年憲法發布當時には百三十億四千三百四十四萬圓となり同二十七年日淸戰爭の時には百六十六億六千六百六十四萬圓となり同三十七年日露戰爭の時には二百二十七億四千二百四萬七千四百二十四圓▲大正元年今上陛下御卽位當時には三百七十五億二千三百四十七萬六千六百五十五圓となつたと云ふことである▲されば我が國は神功皇后以來二千年間にして其富力は約百倍した▲昨年歐洲の戰爭勃發以來本年七月末日迄交戰國の費したる戰費總額は三百四億二千三百四萬八千圓▲世界の耳目を聳動したる巴奈馬運河の大工事は僅か五六億で出來上つた

◎商議聯合問題 廿日役員會開會

曩に發布されたる朝鮮商業會議所令は本月一日より施行さるゝこととなりたり右に就き京城日本人商業會議所は京城商業會議所との合併に關し新定款を作製して之れを總督府に提出すると同時に組織變更に就て種々準備中なりしが最初の計畫は日鮮人兩會議所を合併して日鮮聯合の商業會議所を設置することに決定し居りそれに關し從來鮮人會議所にある債務の整理を行ふの必要あり其方法として韓一銀行と交涉中なりしも中途同行の或る事情のため止なく豫定を變更し舊來の日鮮商業會議所は之れを其儘として別に日鮮人聯合の會議所を新設して當局の認可を受くることに略決定しそのため日本人會議所にては二十日午前十時より役員會を開會し一應其實行方法に就て打合を爲したる上更に近々總會を開會すと云へば年內には勿論新會議所の實現を見るに至るべし

◎學校賣店好評

共進會場內美術館横の學校賣店は本月に入りてより仁川公立商業學校の鮮人生徒によりて擔當販賣せられ應待の親切と物價の低廉とを以て多大の好評を博しつゝありしが十六日よりは更に仁川公立商業學校(內地人)の生徒によりて交代擔當し六名の生徒と教師一名は一同勉強して開會まで販賣に從事すべしと因に本月一日より十七日に至る同店の賣上高は一千零八十圓餘にして十七日の如きは一日の賣上高百二十五圓餘に達したりと

◎仁川九月中豆類

仁川九月中豆類輸移出高は五萬四千九百八十一圓にて前月の三萬七千八百一圓に比し一萬七千百八十圓の激增を見しは龍山大豆の手持筋が愈端境期を經過し新物の兆々あるに先安を見越し時に手放賣をなせるに依る又前年同月の二萬百七十八圓に比し著しく增加せるは本年の輸移出は前年に比し稍遲れたるの氣味ありし爲なり本品拂底の事なるも新物の兆々廻著するあり相場は月初め十六圓五十錢見當なりしも月末に及びては六圓二十錢臺を唱ふるに至れり當地穀物協會の月末在庫高は大豆一千七百九十七叺小豆一千八百叺なり

◎仁川九月中肥料

仁川九月中肥料輸移出は五千四百十三圓にて前月の九千九百十八圓に比し四千五百五圓の減少を來せるが之れ昨年來米價安の影響を受け農家は一般に手許餘裕なく肥料の如きは多く人肥を用ふるの有樣にて本品も賣行捗々しからず從つて輸移出も前月に比して著しく減少を示せり相場は上等物三十錢見當にして下等物八錢位迄なり

◎隊署長會議終了

京畿道に於ける管內隊署所長會議第五日は十八日午前八時半より警務總監部に於て開會立花總長の訓示あり正午には總長より午餐の饗應をなしたるが本會議は之を以て終了せり

◎尾崎氏出發期

十八日夜行列車にて退京する筈なりし尾崎行輝氏は少しく健康を害せるより十九日午後七時五十分南大門驛發列車にて出發する可し

人事消息

▲野呂寧氏(朝鮮總督府參事民課長) 北米倉町三中田方滯在

商況

大阪株式特電

▲後場の商戰

仁川米豆取引所

十六日の十二月限

▲空前の大快擧!!
十月二十日(雨天順延)午前十時開始、選手五十名
京城龍山 市街山野橫斷大競走
經過指定地 パゴダ公園、南山公園、漢陽公園、南大門 龍山練兵場、同總督官邸前、同印刷所前
賞品 壹等より二十等迄
發著點 場內演藝館前
京城協贊會主催

醫學博士室谷修太郎先生述(萬戶必携の家庭參考書)
家庭衞生及び救急法
最新刊 一名醫者のくるまで 定價金五錢 郵稅二錢
內容 一、個人衞生 二、傳染病豫防 三、凍傷 四、火傷 五、熱病 六、狂犬病 七、中毒 八、假死(人工呼吸法) 種々の假死に於ける手當 縊首、絞扼、溺水、埋沒、凍死、毒氣吸入(炭酸瓦斯、燈用瓦斯中毒、泥沼氣)、初生兒 九、人事不省 十、卒倒 十一、癲癇 十二、異物嚥下 十三、外傷、劍傷骨折、脫臼及捻挫 十四、家庭必備の醫療具及藥品
家庭博覽會內の賣店及市內各書肆で賣費を以て御頒ち致します部數に限りありますから至急御買求を願ひます
發行所 京城日報社代理部 京城大平通一丁目 振替口座京城三〇〇番

於朝鮮共進會
受領 一等金牌 二等銀牌
閑院宮殿下御臨場の砌り御買上の光榮を忝致候
貴金屬製作時計商
仁川本町(電話三七〇番) 糸岐商店 振替京城七一一番

銀牌と銅牌と褒狀受領
始政五年紀念朝鮮物產共進會に於て
弊店工場謹製の
白瓜奈良漬は名譽なる銀牌を受領せり
味噌に對しては名譽なる銅牌を受領せり
尙(祐)醬油は褒狀賞を受領するに至れり
陸軍及諸官衙御用達
諸漬物問屋 都味噌製造元 (祐)醬油釀造元
京城岡崎町 嶋屋本店 電話二二三〇番
京城北米倉町 嶋屋市內販賣部 電話九〇三番
振替京城五七番

[illegible]據の賣底を見越し[illegible]めて來りし丈一時間に掲して本性を現はすは當然なり即ち今後場に於ける東新大株の三圓高を示せしは此間の消息を發揮したるものにして此に今後の再爆發を語る前提たらんか次で日本郵船の二圓高其他諸株の底堅きは大に注目すべきものあらん

[illegible]綿、新株　同東洋紡　大阪商船　日本郵船　大阪米設

[illegible]七〇〇　一〇四、九〇　一二三、九〇　一一九、一〇　一二〇、六〇　一一九、三〇　一、八六　一二一、〇八　一二一、一四　一二一、四五　一二一、四五

[illegible]に引返せり[illegible]入錢と一錢安に[illegible]押して[illegible]十七錢と入電に接したる[illegible]六十錢を抜く[illegible]前場[illegible]八十九錢[illegible]六十錢五十

本社献納の煙花（十八日夜スケッチ）

飛ぶとは人間の本能か　空中の覇者尾崎行輝氏は語る

私は是れまで所澤以外の處では飛んだ事がありませぬのでした一體所澤は前から八里山からも八里と云ふ氣流の具合の最もい丶處で其爲めに特に選定した處ですから無論之に比較すれば京城の空中は氣流の具合などよくない殊に龍山の練兵場は手記にも書きましたが飛行場としては不適當だと思ふ何日目の飛行でしたか離陸するとすぐに

▲突然横撲りの風 に遇つて五秒も手が遅れたら轉覆したかも知れないと思ふ目にあつた處さから言つても餘裕のある飛行場とは言へない飛行場としては蠶室津附近か漢江の沙ッ原の方が遙にい丶のだけれど今度は見物の都合で出來るなら共進會の裏の廣場でどもやつてくれと云ふ事でしたが到底もそんな處ではやれないから此方からも少し讓合は何處か

▲別の地點を發見 する必要があると思ふ——京城の空から初めて眺めた市中は非常に愉快でした非常に愉快な事が二つあつたが一つは朝鮮家屋が無數に密接連續してる樣子が丁度大きな蜂の巣の樣にも思はれて然も其葉茸が非常に柔らかな感じを與へた事、他の一つは手記にも書いたが空中から眺めて實に立派な廣大な庭園だと思つてた處が李王家の秘苑だと云ふ事を聞いて其所謂秘せられた苑を暴露して

▲空中から瞰下し たと云ふ事です兎に角飛行と云ふ事は決して恐ろしい事ではなく飛んでる時の氣持は言葉に言へない程愉快です飛んだ人でないと理解する事が出來ない氣分、そしてそれは飛行機の無かつた以前迄は人間として味はふ事を許されてゐなかつた氣分だと思ひます、最初は不安な危惧が伴ひもするがすぐに慣れて終へば非常に愉快で『一體飛ぶと云ふ事は人類の（動物として）本能ではないかしら』など思はれる程です——

▲ガソリンの粗惡 な事や其缺點を無理をして強飛行をやつた爲めに機關の齒車を磨滅させて代りのを使はなければならなくなつた事や氣流の關係やから十七日の間に僅に九回より飛行の出來なかつた事は返へす〳〵も遺憾に堪へない處です何卒其意を充分に京城の人士に致し度いと思ひます

彩火南山の天に冲す　神輿の還御と本社献納の煙花

正午家庭博の後庭で休憩して馬力をかけた神輿の行列は豫定の道筋を練つて黄金町より永樂町に出で赤門前に休んでから更に

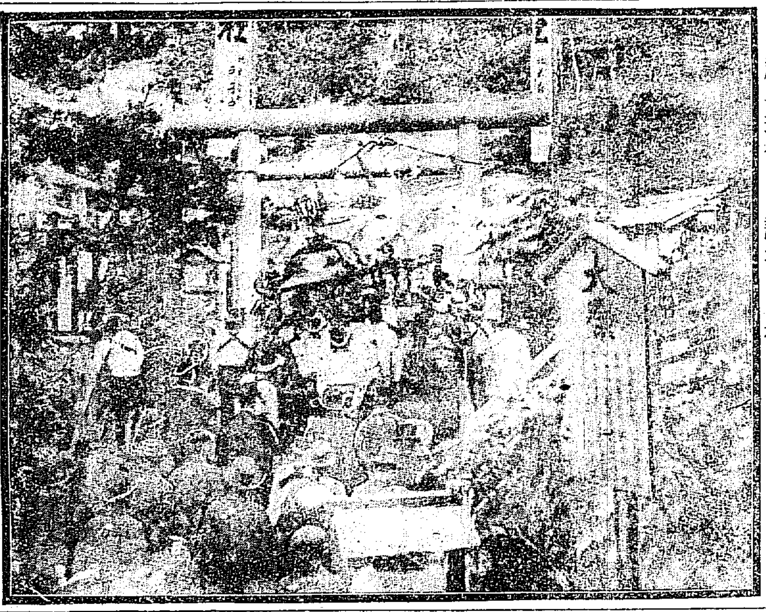
△元氣を増して 壽町から日出町を押登り總督官邸の前に來たときは輿丁の昂奮は頂點に達してヨイショワッショイの掛聲勇ましく百五十貫の神輿を手毬の如く搖り上げ押上げて囃し立てながら坂を登つて總督府前の廣場へ出た、此處には神輿の還御を參拜に旁

△本社の揚げる 煙花から落ちてくる社旗だの無料入場券を拾はうとする人々が大神宮の近所から音楽堂の邊りにかけて人山を築いて非常な賑ひだ、社務所の後ろの廣場の土俵では子供角力が始まり菓子屋だの風船屋が店を並べて如何にもお祭りらしい景色を織り出してゐる、神輿は四時に着いたが時間が早いので此處では

△殆んど夢中に なつて練り廻る總督府の正門前から農商工部入口の坂下まで行つてはワッショイ〳〵と引返す事二十回一時間に及び五時過ぎに漸く還御した、此の間に本社の献納した黄金町三丁目三河煙花商會出張所、大塚煙花製造所の煙花師が互ひに腕に撚をかけ造り上げた煙花は

△一發毎に殷々 の響を發して沖天に打揚がると中から本社の社旗、家庭博の無料入場券がバラ〳〵と現はれて折柄の風に其處此處に散つてゆくので大喝采だ、夜に入つては神社に參拜する者引きも切らず、角力場に子供大供の蚊の脛角力を見ながら月に

△明るい秋の空 に描き出す煙花の美しさを賞しながらの見物人が非常に多く嚴粛なる御靈代御還座祭の執行なはる丶十一時過ぎまで熱心に見物してゐた、又市中も煙花見の人出で賑はつた



神輿還御と參詣者の沓（京城神社前の光景）

觀月デーに團子

京城協贊會主催二十三日（舊曆九月十五日）の觀月デーは當日夜間入場者先着二千名を限り松ぞの特製の團子一包宛を饗應する筈にて晝間よりの入場者はその特典に浴するを得ずと尚ほ當日は協贊會廣場にて鮮人の綱渡り曲藝あり一般の觀覽に供する由

今日の演藝館

△晝間

▲御代の榮　久子、政千代、若奥次、光江、時勇、伊丸、若代香、千歳、小牡丹、若子、小染、律榮、若子、高子、玉龍、花龍

▲つひのよるべ　千代菊、政勇、小牡丹、若菊

▲地方　染代、その、若一、一二福、光奴、金玉助、牡丹、於高、久勇、金太、金玉、〆太郎、〆子、一若、ぽんた、喜美子、おきし、福丸、三太

△夜間

▲天勝一座　奇術、魔術、胡蝶舞、少女ダンス、喜劇鼠取

反籌安會　支那青年將士立氏を狙撃す

支那に於ける反籌安會の組織と同時に東京にも同支部設立の目的を以て入京し過般來在留支那人間を奔走中なりし蔣士立氏の赤坂新町五の三四の寓居に十七日午後九時一人の支那青年來訪し突然拳銃を以て

二發蔣を狙撃したるに彈丸はあやまたず一發は右胸部を貫通し一發は右下腹部に命中し蔣が其場に打ち倒る丶隙に兇漢は現場を逃走せり急報に接し警視廳は非常線を張り犯人捜索に努めたるも未だ縛に就かず原因は籌安會反對者が帝政問題の切迫と共に東京に於ける中心人物たる蔣に兇行を加ふるに至りたるものなるべしと蔣は餘程の重傷なるも生命には別條なかるべし（東京特電）

女の首斬り　牡丹臺の人殺し　手掛り更に無し

風光明媚なる平壤牡丹臺附近を背景として慘忍極まる人殺しの行はれたるは十五日夜のことなるべく翌日午後五時急報に接して平壤警察部と共に現狀に駈けつけたる柴田醫は檢診の結果死後廿時間を經過せる他殺なりと檢定せり

▲現場の模樣 は牡丹臺の北壁に當り道幅は極めて狹きも林原面、西川面、斧山面方面に通ずる最も人通り繁き道路の眞中に於て兇害をしへたるもの丶如く被害者は四十前後にして兩手は衣類を以て制縛され尚ほ首にも手拭を卷きつけあり屍體を檢するに仰向に倒して鉈か庖刀若くは菜切庖丁を以て數回

押し切りたる形跡あり首は後部に僅か一二寸の皮を剩せるのみにて殆んど打落され傍には空の財布臘燭二三合と凡そ一斗を容るべき壺並に小形のサバリなど散亂し居れる樣子を見れば

▲死者の素性 は日常市中を賣り歩く臘燭賣とは判明せるも何處の者とも見當つかず、彼等は平素市中に多數入り込める平壤附近に住居せる者はなく多くは平原江西方面より行商に來る者にて、只被害者の特徴としては前齒の一本腐蝕して缺げたると右手の紅差し指の端が何病かの爲屈曲變形せるとあるのみなれば其筋に於ても死者の身元を取調ぶるに一層の困難を感じ居れり

▲殺害の原因 加害者亦何等の手掛りなき狀態なれば殺害の原因に就ても暗中模索にて何等の形跡認め難く只單に掠財の仕業ならば已に兩手を制縛し首にも手拭の卷きつけあれば些の抵抗もなく所持の金を強奪し得べく必ずしも息の根を止むるを要せざるならんとも思はれ殊に瘡口を檢するに三段にも四段にも跡のつきて深く刻まれあるは餘り鋭利ならざるも鮮人が平素所持する小刀の如き刄物にては切れず必ずや豫め何等かの用意ありたるものとより外には思はれず兎に角其の手掛りの絶無なる點に於て誠に近來稀有の出來事なり尚ほ平服警官には時を移さず各方面に向つて活動を開始せり

後場動かず

[illegible]大阪堅らざる入電にて[illegible]安を入れた[illegible]ろ直に引返したる報じ居るより八圓五十八錢と寄付六十錢と捺げて動かず[illegible]買に[illegible]する[illegible]買にて五十九錢で散會したり斯る成行にて

內地正米高

[illegible]十圓五十錢[illegible]錢[illegible]十錢五十錢にて大阪定期高に連れ强氣[illegible]本日某所へ達したる電報に依れば兵庫正米二十[illegible]錢東京[illegible]

平均値段　一節　二節　三節　四節　八圓四十八錢　八圓四十九錢　八圓四十八錢　八圓四十八錢

剩す所僅か十三日

△共進會 は開會以來非常の好景況にて今日迄の入場者六十五萬人に達したるが閉會期も漸く切迫し剩す所僅かに十三日となれり此間に觀月デー、自轉車競走、マラソン競走、藝妓妓生變裝行列等の催しもあれば地方人士も都の人も未だ共進會を見物せざる向は必ず此機會を逸する勿れ

△家庭博 も人氣湧くが如く共進會の塲外餘興又は別館とも云ふべき位置に在るを以て共進會見物の人は往か復へりか必ず入場し其陳列の巧妙と人形の美しきは非常の評判なり家庭博も共進會と同じく本月中にて閉會すべく目下大廉引的景品デーの開催中なれば此機を外づさず來觀あれ

此機會を逸す勿れ

郡書記の面を被る

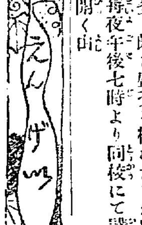
名まで猿田といふ男茨城縣東茨城郡小松村生れ住所不定無職の猿田信義（三五）は八月二十八日國元にて父の金五十圓を窃み出して旅費として渡鮮し仁川に來り次いで親族なる平壤南山町市野澤酉三方に至り厄介になり居る内同家の郵便貯金通帳拂出高一圓のものを窃取し同地大和町の某印版屋にて市之澤なる印章を僞造し是等を携へて平壤を逃走し九月二十五日京城に來り古市町旅館岡本方に總督府郡書記市之澤酉之助と有られもせぬ官名を詐稱して投宿したるも所持金とては一文もなきより平壤にて窃みたる通帳即時拂八十九圓とあるを三十圓拂出して殘額多きもの丶如く見せ掛けて之を宿主に預け置きて信用せしめ本月一日迄滯在して宿料六圓四十錢を踏み倒して逃走し行き掛けの駄賃に同家止宿人太田某の所持品なる衣類を三點八十二圓を窃取し之を黄金町三丁目の西島古物屋に十五圓七十錢にて賣り飛ばし更に仁川に逃げ行き花町一丁目の角田下宿屋に泊り込み七日正午頃止宿人青山某の毛布外一點（五十二圓）を窃取して逃走し龍山黄金町等の古物屋に叩き賣りたる所を本町署の手に捕へられ檢事局へ

死刑囚の上告

併合前忠北各地を荒し廻りたる稀代の兇賊金在性（五）は自ら首魁となり銃器を携へ部下數十名を率ゐて兇暴を逞うし明治四十年八月中には忠北報恩郡邑内に居住しゐたる清水民治夫妻北村千東夫妻の四名を銃殺したるを手初めに其他内地人を殺傷し全鮮に於ける主謀者と相呼應し京城に於ける内地人及び重なる朝鮮貴族を擊退せんと計畫したる同人は公州地方法院に於て死刑の宣告となりたるを京城覆審法院に控訴したる所同じく死刑の判決となりたるを尙も往生際惡く高等法院に上告したり

石龍子の講演

石龍子の性相學講演會は十八日日の出町日の出小學校講堂にて開會せられ聽講者非常に多く頗る盛況を極めたるが明日より毎夜午後七時より同校にて講演會を開く由



▲有樂館に天勝　協贊會招聘の天勝一行は來る二十二日より五日間有樂館にて大入を博したる由

▲御成座　十九日の藝題は忠の友九變、竇劇膝栗毛なり

▲浪花館　小南一行は大入を續け居れるが大切には特に龍紀聽川の所作事を加へたり

祝する日　今年の幸運を

家庭博景品デーは今十九日にて終了

趣味と實益とを兼ねた家庭博の精巧な人形の陳列振りは一般の大人氣を呼び後既う十餘日を餘ます今日となつては、見殘してはならぬと云ふので今日此頃では地方の人より京城

市中の人の見物が却つて多く第一號より第五號まで立錐の餘地もない盛況十八日は京城神社のお祭りの參詣者は其歸へり掛け雪崩を打つて家庭博に殺倒

して場内は非常な雜沓を慰みに提供した景品は又存外の大人氣で景品引換所は相も變らぬ大繁昌家庭博の景品デーも今十九日の一日で而も家庭博提供の一等四圓より四等一圓までの本景品の外に臨時

寄贈の番外景品は積むで山の如き盛況 だから今十九日の觀客は家庭博を見る上此等の寄援な景品の籤に當つて此年の幸運を祝する人も尠なくないであらう

家庭博寄贈品

▲上白米二石（二斗入十俵）龍山精米所
▲同五斗（一斗入五俵）今村精米所
▲瓶詰漬物色々　島屋本店

謹祝家庭博覽會
大正四年十月十八日
始政五年記念朝鮮物産共進會
平安南道特別視察團一同

最新朝鮮案内　附録京城案内
●本書は朝鮮に於ける出版物中の最新のものなり
●本書は簡にして要を摘み朝鮮の大體と現況を知り併せて京城を知るに最も便也
定價一册金壹圓・送料十二錢
發行所　京城旭町二丁目　電話一二五〇番　振替京城一二三一　朝鮮雜誌社

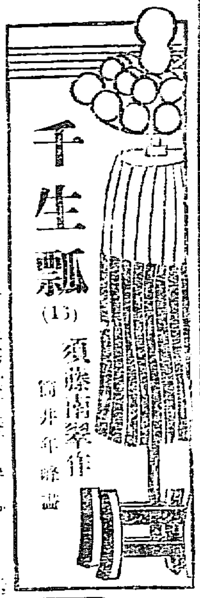
電話長八番
右營業專用ミ致候間不相變御用命奉願候
●朝鮮總督府法定消毒劑　アイゼル（液粉末）
●總督府專賣人參精粹　高麗人三（エキス錠劑）
本舖　京城鐘路宜壽堂　井上藥品部

京染

特製支那鞄
弊商店特製支那鞄は上等茶ヅック全部鐵椽にて投げても擲れぬ大丈夫品トランク代用となる
（カケゴ長サ二尺六寸　フタ深サ一尺四寸）價格 六圓五拾錢　四圓五拾錢
三尺長サノ羽織入レ支那鞄 五圓
其他鞄支那鞄等の形は御注文に應じ如何樣にも調製す
柳行李、トランク旅行用具一切大勉強
鞄製造元　京城本町一丁目（電話一三四番）高木旅行用具店

旅館　元山　愛媛館

資本金　壹百萬圓
政府貸下金　三十二萬九千二百圓
農工債券發行高　百參拾萬圓
銀行長　白完爀
支配人　遠山熙
株式會社　漢湖農工銀行
京城南大門通二丁目　電話 五二四番 五二七番 五五五番
支店　開城、春川、江景、太田、公州、鐵原、淸州、忠州、論山
當銀行は普通銀行業務も確實親切に御取扱申候



千生瓢(15)

須藤南翠作　筒井年峰畫

雪消(一)

鶯の初音が朝開きの窓に迎うる頃、二聲。三聲、誠に春に通ふ春風の使命を帯びて。冬の初めから垂れ籠めて、風の通ひ路を塞き止めた間窓の障子が、この聲にそゝのかされて、さら〳〵と引き開けられた。南の方青に先を揃はせて、寄せた顔を出したのは、振分髪の姫君であった。睫毛の長い瞳が[illegible]

か、鶯も彼方此方に飛び交うて、頻りに春を囀り奏するのであつた。

「ホ、鶯の嬉しさよ。餌の面白さよ」

「惜度信濃様の開誘を開くやうな」

「あれ姉上の仰しやる事わいの、[illegible]を聞きつけたやうに、鶯が囀りまする」

「[illegible]鳥が教へて日上手にはなりました」

「諸ございませう、姉上に」

「あの初様にか」

細うして、韻義の梅ヶ枝を見上げて

「實に〳〵初音おざりまいた鶯宿梅もはや開くげにおざりまする」と笑顔美しう斜に振り向く。

「信濃の耳果報、姿にも今の聲聞かせいでかいの」

交つて外面を眺むる姫は、年の頃十五ばかり、丈にも餘る黒髪をさつと捌いて。綾の袂に居處を掩ひながら、枝うつりする鶯の羽風に、眩しさうに繊める臉邊、麗しいとよりは神々しい。是を城中に秘められた寶珠と知らねば、自由の神女の逍向して、足羽川邊に遊ぶかと疑ふであらう。

天に知られぬこの春光を感じたの

「いえ阿茶な様に」

「まあ、あの姿が？」

「御意ぢやまで」

「ほい、ほい、ほい」

「ほい、ほい、ほい」

同じ居邊に、同じ笑渦、うち笑む聲音も似たりや似たり、ひきを煩ふ菖蒲に杜若、聲を和せて商音張る鶯の春の曲、汀の氷も溶けるであらう此一聲に山々の雪も消え初めて、四方の通路が開けては、北庄も泰平の境ではなくなった。修理亮勝家は、老ゆく身にも當年の英氣は錆磨しなかつた。殊功を急がぬだけに圓熟の境に進んだ。それだけに輕々しく動かなかった。佐久

間玄蕃丞盛政が、一概に血氣の勇に逸つて、前切の勢い何の動作を焦つたのも、一つは其處にあつたのだ。

鬼柴田の名に顔を指代させた[illegible]の結構金の趣聞には、まだ敗戦の恥は受けなかった。一旦陣頭に押し出すや、幾萬騎の猛兵も、風を望んで潰走した。金の[illegible]の馬標には、まだ百勝の光りが失らなかつた。北庄の城砦は、如何ほど堅固に備へるとも決して難攻不落の要害ではない。[illegible]は一の木戸であり、[illegible]であるこの二の木戸[illegible]破られては、北庄は裸城となつて、敵を四方[illegible]まで引き付けるよりは[illegible]一騎當よりも、城地としては遂に努つてある。此城に本陣を立て、北陸道の重鎮となり、四方より御矢一つ射させぬのは、全くこの老將がこゝに籠して、

鷲鳥の如き眼を光り、八表を睥睨するからであつた。

「美濃の使も再三になりました。[illegible]もそろ〳〵溶くるげおざりまする。今朝ほどは路端の梅も一二輪開いたやら、耳珍しい鶯の初音も告げておざりますの。是を[illegible]つて御鬱散なさせられい」

小谷の御方は土器を進めた。二の姫のお初殿が、甫しやかに銚子を取る。勝家は自らなつた武者髭を撫でながら、微笑むで土器を手にした。

「酒飲うてうち續くのも少時の間じや。久し振に鎧を脱けて、駿足に汗かかせねばならぬわ」

「武勇には附きたいもの、如何程御旗を出されうとも、御領國は春の風が吹きまする。花一つ散らす敵もおざりませぬ。小谷の籠城の苦しさ、悩しさは、物数ともおざりませう」

心許なさに思ひ比べまいては、聞の小谷の御方は情を含んで微笑むだ。勝家は心地よげに土器を飲干した。

泌尿器病　腎臓病・膀胱病・淋病・梅毒・痳病・皮膚病　專門　入院隨意　診療時間九時迄　永樂町二丁目金光教會隣　安部醫院　電話四一九

酒煙草きらひになる薬　どんな酒煙草のみでも害たく心から嫌ひになる郵券二錢送れば説明書及大澤博士他名士の禁酒禁煙論進呈　本舗 大阪市御堂通二 森田商店

胃病新薬 マーゲン　胃病快治法無料進呈　特約店 京城南大門通二 新井藥房

京日案内

◎普通 [illegible]
◎貸本用 京城日本人[illegible]
◎小僧入用 十四歳より[illegible]
◎空地 南大門[illegible]
◎[illegible]
◎番外 [illegible]
◎貸家 [illegible] 曾田書林
◎西洋料理 [illegible] 浪花屋
◎寫眞技師採用 770
◎淨水 快通丸 京城旭町一 淺野藥光堂 628
◎最上等酒 大勝釀造場 755
◎りん病三日藥 婦人病にも特効 本町三丁目東京救済院京城出張所 765
◎今村醫院 内科小兒科産婦人科 本町三丁目 電話一八三一番 766
◎時計修繕特別二割引 京城本町三丁目 眼鏡時計商 金化堂 767
◎今本醫院 内科小兒科産婦人科 京城南大門外 電話二八五二番 752
◎花柳病專門藥房 詳細は本月三日の京城日報を御覧 京城南大門外 ドラツク商會 電話二五六七(振替四六七) 687
◎恩給年金類立替 京城武橋町二十三番地 國江商會 電話二二八三番 708
◎書畫桐箱製造 京城日の出町五番 東京 藤井出張 電話二〇五 694
◎乳母至急入用 有望みの者は京城大和町二丁目十六番地 辰市木丸方へ申越しあれ 753
◎日本製六〇六號 「アルサミノール」注射開始 京城明治町一丁目(元服町) 皮膚科 佐藤醫院 744

◎土産翡翠 735
◎須古醫院 花柳病專門 永樂町 電話二一〇二番 565
◎恩給年金類立替 西村商會 712
◎大阪新日報 733
◎寫眞店
◎[illegible]屋 737
◎博多屋本店
◎恩給年金類立替 711
◎募集 749
◎日の出商行
◎古着古道具類 クツ谷商店 630
◎新職業 681
◎恩給年金類立替 山口屋 710
◎はねつき(うちみ)等 柔術道場 明治町 685
◎辯護士 朴勝彬

新刊書御案内

書名	著者	定價
時論及思索	稼年縮刷四卷	一、二〇
アッシジの聖フランチエスコ	中山昌樹譯	一、八〇
セザンヌとオドリ 長田秀雄譯		八〇
ブラジル移植民の眞相	伊東	九五
靜	成水野鉄太郎	一、二〇
頭山滿と玄洋社物語續編	平井晩村	九〇
地獄	江馬修	七五
生命中心の哲學	三並良	八〇
認識論	紀平正美	一、二〇
銀笛	小杉天外	一、三〇
醒める女	坪内逍遙	一、〇〇
將棊はめて千態	土井南太郎	三五
筆草	大町桂月	三五
正しい用字法	大町桂月	八〇
改訂商業通信	石川文吾	三〇
諸貸金取立法と貸倒れ復活策		三〇
參考化學通解	山崎要作	一、〇〇
朝鮮風俗集	今村鞆	一、八〇
朝鮮より	宮原	五五
學校體操の原理及教育法	向井虎吉	一、五〇
教育法眞髄	高野浩亮	二、四〇

大阪屋號書店　京城本町通三〇六 振替京城二二一七

名刺　太平堂名刺舖　京城寄座前　電話二七二 ◎振替三三六七　地方は郵送料不要

石鹸試驗法

石鹸を些し削つて試驗管に入れ之にアルコールを注ぎ好く振り混せて火に炙れば純良の石鹸は透明となる若し混合物があれば沈澱し遊離脂肪があれば混濁が見ゆる。又遊離アルカリを含むものは此の液にフェノールフタレイン一滴を落せば變色するのです

兎に角試して御覧なさい石鹸の善し悪しはこれで直分ります

品質本位の

花王石鹸

帝國陸海軍、帝國大學を首め著名官衙病院等に於て常に御採用を蒙るのも、皆様が平常お使ひになつて『花王石鹸は特に皮膚の化粧衛生に宜い』と被仰るのも、畢竟品質が此通り純良無比なる故からです。

花王石鹸製造元 東京馬喰町 長瀨商會
鶴香水日本輸入元 花王石鹸關東代理店
花王石鹸關西代理店 大阪安土町 大崎組商會

專門家の例に倣へ！

専門的乗輪家ならば誰にてもよし試みに其の専門家に就きて問はれよ！

何のタイヤが最も信頼し得べきか？
何のタイヤが最も走り易きか？
何のタイヤが最も價値多きか？

而して後専門家の推奬により

ダンロップタイヤを使用せられよ

空氣入タイヤ製造業の開拓者

ダンロップ護謨會社

神戸　東京